

それを持つて居ない者は牢屋へ入れたのであるが、一日に四萬五千人も牢屋へ打込んだといふやうな古今無類の亂暴をやつた事がある。自由の爲めデモクラシーの爲めに戦ふといつて居る亞米利加が、さういふ亂暴な事をやつたのである。まだ他にもさういふ事は澤山あるが、一事は萬事之れに依つて見ても、今度の戦争が決して善人と悪人との戦争でないといふことが分ると思ふ。私は今度の戦争は悪黨と悪黨との戦争である。日本などでも世界の平和の爲めに戦争をするなどと言つて居るが、之も嘘である。戦争は決して平和の爲めにするものではない、少くとも此度の戦争の爲に世界の平和がより確になつたといふ事は斷じてない。『獨逸を滅してさへ仕舞へば最早軍國主義の國はないから、世界は永久の平和が得られる、だから辛抱して戦へ』といつて、自國民を勵まし、又他の國に對しても『吾々は真正なる世界の平和の爲めに戦ふのであつて、自國の利益の爲めではないから仲間に入れ』といつて誘つたのは大偽善である。

希臘を仲間引つ張り込まうとした時などは、國王が参戦に反對したといふので、國王は位から引すり下された上に國外に放逐された。さういふ風にして無理矢理に希臘を

引張り込んだ。つまり小の蟲は殺しても大の蟲は生かさなければならぬ、世界平和の爲であるからといふので、遂に希臘を斯の如くして参戦せしめたのである。元來希臘が聯合國の方へ入らぬと、巴爾幹方面に於ける聯合國の政策計劃は非常に不利に陥る、所が巴爾幹方面に於て聯合國が優勢にならなければ獨逸を倒す事は出来ぬ、それで無理に希臘を参戦せしめたのである。獨逸が白耳義の中立を犯した時は獨逸は悪いと盛に攻撃して、之を以て獨逸に宣戦する口實とした所の英吉利が、希臘に對してはモット甚い事をして居る。然るに世界各國民は英吉利に瞞着されて居るから、英吉利の希臘に對する行動は殆ど忘れてゐる。殊に日本人はボンヤリして居るから尙氣が附かずに居る。さうして獨逸だけを怪しからぬといふて居るが、英吉利の方がより、怪しからぬのである。

それから支那を引摺り込んで参戦させた時、此時は日本も仲間に入つて居つたが、私は其時から支那を参戦させる事は間違だ、支那を参戦させた所が何になるかといふ事を論じて居つたのである。支那を参戦させた爲に今度の様に山東問題が起つたのである。支那を参戦させれば山東問題を持つて來る事は分り切つて居るのである。それなのに

今頃になつて、山東問題の爲に國際聯盟を脱退しなければならぬ杯と騒いで居るのは大間違である。又戰爭中佛蘭西に出兵して呉れといふ要求があつた爲に、日本では出兵論が一時盛に議論された。新聞でも萬朝報とか報知新聞とかは熱心に出兵論をやつて居つた、出兵論に反對する者は國賊と謂はぬばかりの調子であつたが、私は『斷じて出兵すべからず、日本兵は日本の爲に戦ふべきものである。外國の爲に戦ふならば一人でも半人でも出してはならぬ』といつて反對した。幸ひ出兵は行はれなかつたが、若し彼時出兵したらどうであるか。地中海に於ける協同作戰とか、或は東洋に於ける番兵を大勢出させて多くの犠牲を拂はせて置き乍ら、當然日本が取るべき山東さへ支那が何か言出すと、日本が抗議しなければ英吉利や亞米利加は直に之を支那へ引渡して、日本の體面を滅茶滅茶にする積である、若し日本が出兵して居つたらどうか、出兵して金を澤山使つて犠牲を拂つて居つたらどうか、金を返せば可いといふ者もあるが返す金なんかある者ですか。日本が出兵した費用を英國や佛蘭西が出す筈がない、出すものか。又出した所が他の國から金を貰つて日本が兵を出すといふ、ソナ事は日本は斷じてやつては不可ぬ、日

本は戦ふべき時は借金をしても戦争する。出兵すべからざるものが金を貰ふから出兵するといふのは、日本兵を苦力とする者であるといふ理由で反對をしたのである、之は今日に於ては、私の言ふ所に皆賛成する事だが、其當時此事を諸君に申せば賛成者は恐らく一人もなかつたらうと思ふ。其はつまり英吉利や亞米利加や佛蘭西は正義の國と思つたからであるが、ソナ事はないのである。其は英吉利、亞米利加、佛蘭西杯の國民は正義の人々であるか知れぬが、國と國と對抗する時には決してさうではない、尤も亞米利加や英吉利も正義でありたいとは思つて居るだらうが、ありたいといふ事とさうであるといふ事とは違ふ。人間はありたいと希望は誰も持つて居る。私も金持になりたいとは思はぬけれ共貧乏でなくありたいと思ふ。併し事實貧乏なるを如何せん。此ありたいといふ事は多く實際とは違ふものである。理想と實際とはよく違ふものである。よく高遠の理想杯といふが、正義や人道は高遠の理想である、高くつて遠い理想である。英吉利や亞米利加も正義人道を理想として、其理想に近づかしめるやうに努力はして居るか知れないが、之を以て直に正義の國であるとは謂へない。

今度の戦争の爲に世界は平和の望みを得たといふものもあるが、私はさうではない、戦争の結果の平和は愈々危なくなつた、世界平和の望みは愈々遠しと思ふものである、若し獨逸をあれ程にヤツつけて仕舞はずに置いたならば、英獨の拮抗は平均が取れるのであるが、今や獨逸はすつかり滅びて仕舞つて、英國の世界に於ける横暴、米國の世界に於ける横暴に對抗す可き力が世界になくなつた、只日本がある丈である、以前には日本の前に獨逸といふ力があつた爲に、英米の波の勢は日本へ来る迄に餘程靜かになつて居つた。所が今度は防波堤が崩れて仕舞つたので、世界に於ける英米の横暴の勢は悉く集まつて日本へ打突かつて来る。巴里の講和會議に於ける出來事は其序幕が切つて落された者である。私は以前から其を言つて居つたが事實に於て巴里の小田原評定の間にダン／＼現れて來たのである。人種平等待遇問題は見事に蹴飛ばされた、山東問題も怪しくなつた。それから南洋の處分もどうなるか判らぬ。まだ／＼何がどうなるか分らぬ、之迄の問題は彼は殆ど序幕に過ぎない。故に私は聯盟脱退論は反對である。私は國際聯盟にも反對だが然し出來た以上は日本は脱退するのは不利益である。入つて居つて英米の勢力に

對抗すべきである、日本は入つて居つて横槍ではない、縦槍を入れて英米に對抗するが可いと思ふ。

最近の新聞に依ると、日本はカイゼルを引張り出して裁判をするといふ事には反對したといふ事である、佛蘭西や英吉利はカイゼルが憎くて堪らぬから、引張り出して裁判するなり處罰するなりしたいだらうが、日本からいへばさう憎む可き譯はない。只英米の翻譯で頭を埋めて居る連中は、英吉利や佛蘭西が憎い／＼といふて居ると、憎まなければならぬやうに考へて憎い／＼といつて居るが、若しカイゼルが憎いといふなら、南洋あたりの野蠻人の中には人を取て食つて居る奴があるがさういふ奴はどうするか。世界中の人間に對して好きだ嫌ひだといふて世界の維持が出来るか。英吉利や佛蘭西はカイゼルや獨逸をヒドイ目に遇はせるといふ事は彼等の利益かは知れぬが、日本に取つては何等の利益がない。兎に角それが爲めに世界に於て六千萬といふ人民の恨を買ふ事は利益でない。故にカイゼルの裁判に日本が賛成しないといふのは結構である。

尙進んで講和條項等を見ると全く滅茶々な亂暴千萬である。アンナ亂暴をやる事

には日本は極力反対しなければならぬと思ふ。何故反対しなければならぬかといふと、あの條項は獨逸に對しては實に嚴重苛酷である。苛酷といふ事は實に到れり盡せりである。殆ど人間のあらん限りの智慧を絞つて、獨逸を苛め附る所のあの講和條項を、果して世界が認めるといふ事になれば、此次に苛められるのは何所か。他人の事ではない。成程今後獨逸を滅して仕舞へばもう獨逸を苛める事はないが、此次にはあの慘酷主義、徹底的に人を苛めるといふ主義の鋭鋒を何所へ向けるか、其は當然我日本へ向けられる事と思ふ。日本の外には此鋭鋒の向ふに立つ所の國はないのである。それを氣附かずに日本の委員等は巴里の小田原會議でイツチャク言つて居る。所が日本は支那に對しても同じ事をやつて居る。

支那の南北和平會議は此頃打壞されたといふ事が新聞に出て居るが、あの南北和平といふのは日本杯は非常に盡力して遣つたものだが、實は南方も北方も恨を捨てほんとうに和さうとしたのでなく支那の狂言である。あれは巴里の講和會議に於て山東問題で日本に一泡吹かせよう、それには南方のみが言出したのでは聯合國が肯かぬ、また北方が

主張したばかりでも不可ない、そこで支那全體が一つになつて北方からも言出す、さうして山東は當然支那へ直接引渡すべきものであると主張したならば、聯合國も承知するだらうといふことで、南北を一緒にする爲めの馴合狂言である。その日本に一泡吹かせやうといふ南北和平の爲めに、日本は金を使つたり非常に盡力してやつたりしたのである。それでも好い按排に和平が出来れば結構だが、兎に角日本が頑張つた爲に山東問題が日本の言ふ通りになつて支那の言ふ通りにならぬ。さうすると南北和平會議も駄目になつた。詰り山東問題が支那の主張通りにならなければ、日本に一泡吹かせやうとした和平會議が駄目になるのは當然である。日本は自分に向つて来る事を知らないで、一生懸命に先方へ行て金遣使つて力を盡してやつたものだが、南北和平は必要な事だが、其會議をやつて居る今の連中は誠意も何もあるものではないのである。今日の世界は實に斯の如きものである。

さて此くの如き有様であるならば戦後に於る經濟上の重要問題は何か。私は無論日本を中心として考へるのである。元來今度の戦争で獨逸を滅さなければならぬといつ

たのは、無論人種的憎悪心からであるが、然し人種的の憎悪心だけでは容易に斯くの如き大戦争にはならぬ。凡そ歴史上に於て戦争といふ戦争は人種的憎悪心に加ふるに経済上の原因があるものである。此二つが國と國とをして戦はしめる二大原因である。経済上の利益が衝突して居る所へ、人種的の憎悪心が加はつて始めて戦争になるのであつて、人種的の憎悪心のみでも、又経済上の利益衝突だけでも戦争にはならぬのである。例へば日本人が亞米利加で排斥されるのも、人種上の問題と経済上の問題と二つの原因があるもので、決して一方のみでない。日本人は黄い顔をして居り風俗が違つて居る、恰度日本人の仲間へ印度人や朝鮮人が入つて來ると面白くないのと同じで、矢張り亞米利加人も日本人に對して好い感情を抱かない。其も日本人の数が少ければ宜いが、ダン／＼多くなると其處に感情の蟠まりが出来る。日本人がドン／＼入つて來たので、遂に人種上の憎悪心が起つて來たのであるが、然し其ばかりで排日問題や移民問題が起る者ではない。それには経済上の問題がある。第一日本の労働者は賃銀が安い、亞米利加の労働者は高い、それに労働時間が少い。日本の労働者は安い賃銀で労働時間も長い、其爲めに亞米利

加の労働者は働く餘地がなくなる、仍で経済上からも日本人を排斥するやうになる。故に此二つの原因が取除かれなければ、所謂排日問題の解決は到底出来るものではない。それを人種差別待遇撤廃と、お經の文句みたいな事を巴里あたりで言つても何にもならぬ、元來人種平等は否決されやうが何でもない。之が爲に國際聯盟を脱退しなければならぬ、杯とは馬鹿々々しい事である。山東問題は國運を賭しても争はなければならぬが、人種問題はさういふ事はない。人種問題だけが解決されても日本の問題は解決される者ではない。人種問題は否決になつた、つまり日本は泣寝入になつたのであるが、ソナナ事なら始めから持出さない方が可い、泣くならば徹底的に泣くが可いと思ふ。斯の如く人種上の憎悪心と経済上の利害の衝突とが合體する時には、動もすれば戦争が起るのであつて、之れは種々の手段で避け得らるゝのであるが、到底避け得られなくなる事がある、さういふ時には戦争が起るのである。かういふ事は國內に於てもあるもので、所謂労働問題杯は多く経済上の原因に基くものである。それで利益分配法等も其解決方法である事は勿論であるが、然しそれが爲めにスツカリ解決が附くかといふとそれは出來

ぬ。労働者には經濟上充分の満足を與へて、つまり賃錢をタツブリやるやうにして其上働く時間を短くする、それで労働問題がなくなるかといふと決してさうではない。

河上博士は『貧乏物語』といふ有名な書物の中に『今日の金持は贅澤である、金持が贅澤な爲に生産に従事する者が澤山要る。故に貧乏人に必要な物の生産が出来ない。故に金持が贅澤を止れば、其金持の贅澤品を拵へた人々は遊んで居られぬから外の生産に従事する様になり、即ち貧乏人の生活に必要な物を拵へるやうになる。即ち金持が贅澤を止めるといふ事は、貧乏人がなくなり貧乏人が裕福になる方法だ』といふ事を結論して居るが、私はソナ事は無いと思ふ。第一ソナ説法をしても金持の耳に入る者ではない。河上博士の『貧乏物語』は貧乏人か或は貧乏人の候補者が讀むもので、貧乏人や貧乏人の候補者はさう思ふだらうが金持はさういふ事を肯く者ではない。縦んば河上博士のいふ様になつた所で『社會問題』『労働問題』がなくなるとか、社會上の不平が決してなくなるものではない。孔子の言葉に『乏しきを憂へず等しからざるを憂ふ』即ち貧乏を憂へずして等しからざるを憂ふといふ事があるが、私はまだ之では足らぬと思ふ。

憂ふる事は等しからざることばかりではない。若し孔子を今日呼び起して見るならば、『等しからざるを憂へずして安からざるを憂ふ』といふだらうと思ふ。

今日労働問題とか社會問題杯のほんとうの原因は貧乏計りではない。貧乏も大に與つて力があるが決して貧乏のみではない。其よりも不安、不安心だといふ事が大なる原因であると思ふ。若し安心が得らるれば、人間は貧乏でも随分満足する事が出来る者である。殊に日本人の如きは淡泊であるから安心が出来れば満足する事が出来ると思ふ。夫なら不安とは如何なる事かといふに、人種的の憎悪と同じく社會の階級と階級との間の憎悪である。貧民階級労働階級の上の階級に對する嫉み憎しみ怨みの心である。さういふ心のある所へ貧乏といふ經濟的原因が結び附くから社會問題——社會上の軋轢が起る、さうして遂には戦争が起るのである。丁度國と國との間に於いて人種的憎悪心に經濟的原因が加はつて戦争が起ると同じ様に、階級と階級との間に戦争が起るのである。此度の戦争で獨逸が悪まれた所以は、元來獨逸人は一般に押しが太い所謂物事を徹底的にやる、總てがさうであつて淡泊でない不淡泊である。之が獨逸人の缺點で歐羅巴

各國人から嫌はれて居たのである。其所へ持て来て、獨逸は非常な勢ひを以て經濟上に進んで來た。成上り者と思つて馬鹿にして居た獨逸が、英吉利の壘を摩して佛蘭西等は足元にも及ばぬ様になつたので、若し此儘にして置けば、第一に英吉利などは經濟上に大打撃を蒙らなければならぬ。英吉利が殊に不安を感じたのは製鐵業であつた。

英吉利は最近殆ど百年間、世界經濟界の中心となつて居る者である。即ち千八百十五年に奈翁との戰爭に大勝利を得てから、世界の經濟界は殆ど全く英吉利の物になつたのであるが、其から百年の間、英吉利は世界經濟界に押も押されもせぬ確定的の中心勢力を得るに到つた。今度の戰爭はちやうど其から百年目に起つたのである、それで此百年間は大體前半と後半に分れる。さうして其前半は綿の時代、後半は鐵の時代であつた。綿の時代といつても英吉利には綿はない、印度や亞米利加から綿を輸入して紡いで絲にする、又之を織物にして外國に輸出した。之が十九世紀前半に於ける英吉利が依つて起つ所の國の柱であつた。尤も英吉利は精巧な製品も出したけれども綿製品には及ばぬ。矢張り重なる物は綿絲及び綿織物であつて、大體に木綿の時代であつた。又其後半は大

體に於て鐵の時代で、綿絲綿織物と相並んで製鐵材料製鐵品に依て立つて居つた。此事は河上博士が社會問題研究の中に米國のブイダンの説を翻譯してあるが、私も大體ブイダンの觀る所が當つて居ると考へて居る。元來此木綿織物といふ者は只品物を織りさへすれば可い。木綿織物は、大抵の者が着るもので、野蠻人でも一年には木綿織物の二枚や三枚は必要である。熱帯の人間でも裝飾の爲めに相當に必要なものである。所が鐵はさうはいかぬ。例へば庖丁一本買つて置けば二年や三年は使へる、少々錆ても役に立つて我慢が出来るが、木綿はさうはいかぬ、幾らつぎはぎして我慢をしても、年に一反や半反の木綿がなくては濟まない、さうして値も比較的安いから誰にも買はれる、故に之は織りさへすれば可い。さうして販路が擴まりさへすれば可いのであるから、英吉利も特に横暴を働くやうな事はなかつた。故に木綿の時代は經濟上の平和主義の時代であつた。英吉利は此時代に自由貿易主義に依つて世界の覇權を利用して、他を侵略するといふ事は殆ど考へなかつた。時には印度を取つた様な事もあるが、他國を奪ふやうな事はなかつた。日本は誠に仕合せな國で、此木綿時代に國を開いた、亞米利加のペルリーに依つ

て國を開かれたのは十九世紀の中頃で、所謂自由貿易の時代木綿の時代であつた。即ち世界が最も平和的非侵略的非泥棒的の時代に國が開けたのであつた。故に幕府の役人共がへまな事をしたけれ共國を侵略される様な事はなかつたのであるが、もう少し早く國が開けたならば、葡萄牙、西班牙或は和蘭か英吉利、佛蘭西かに侵略されたかも知れぬと思ふ。其から鐵の時代になるともう木綿の時代とは違ふ。鐵の工業は製品として製造すると共に、お客も拵へなければならぬ。即ち使ひ方を知らぬ者には先づ使ひ方を教へてから機械を賣附けなければならぬのである。日本でも始めて鐵道を敷いた時は英吉利人が來て軌道の敷方から機關車の運轉等一切を教へて呉れたものである。斯の如く製鐵品は其品を製造するばかりでは不可ぬ。買ふ所のお客も同時に製造しなければならぬもので、其お客もヤット製造した者であるからまだ十分の力がない、隨つて賣附ける品物は高い。従つて木綿時代の様に直に現金で支拂はせる事は出来ない。乃で信用で賣附るやうにする。三年五年或は十年二十年に亘つてボツ／＼其代金を支拂はせるやうにしなければならぬ。即金ではなか／＼賣れぬからつまり月賦販賣のやうにする。

それで鐵道を敷く時、杯は先づ軌道を賣附ける、そして五十萬圓なら五十萬圓を貸金にして置く。其で利息を拂ふが、元金は年賦償還で可いと云ふのであるから金は無くなるが、それでも利益があれば好いが、利益のない場合は利息も元金も拂へぬ。さうなると先づ其鐵道を取られる。それから國迄も取られるやうになるのである。埃及などは英吉利から種々な品物を賣附られた代金が返せない。遂には代金の代りに國を返すやうになつたのである。斯くの如くして木綿時代には只品物さへ賣れば可いといふ方針であつたものが、鐵の時代になつてからは侵略的泥棒的になつて、ダン／＼他國の内政に干渉する様になつた。さういふ事が現に支那に行はれて居るので、昨日（五月二十五日）の北京電報に四國銀行團の對支新借款團が出来るといふ事がありました、此借款團は今言つた様に鐵道敷設等に就て金を貸すのである。所が支那には金がないから之を貸金として置いて、利息と元金をダン／＼取らうといふので、始終支那に壓迫を加へるのである。支那は從來さういふ事は殆どドン詰りになつて危く列國の侵略を受様といふ時に、今度の戦争が起つたのであります。今度の大戦争は獨逸が世界の競争場裡に於て非常に頭

を擡げ出したが、之が非常に英吉利に取つて迷惑であるといふ經濟上の利益衝突が、只さへ獨逸が憎いと思つて居た人種的憎惡心と結附いて始まつたのである。佛蘭西も普佛戦争の恨を返さなければならぬとか何とか種々の原因もあつたが、矢張り人種的憎惡心と利益の衝突が重なる原因で戦つたのである。其他の諸國も皆さうである。さうして兎に角獨逸を滅したのであるが、然らば戦後はどう云ふ事になるかと云と、聯合國は今度の戦争の爲に非常に其富を減して貧乏になつた。故に戦後第一の問題は如何にして此失はれたる富を恢復し補充するかと云ふ問題でなければならぬ。何所の國も戦争中は公債を募つて軍費に充てた、又不換紙幣を無暗に出して何うやら斯うやら右から左へと繋ぎを取つたが、戦争が済めばそれが出来ない、借金をどうかして整理しなければならぬ。又不換紙幣の始末をしなければならぬ。英吉利杯は借金が八百億もあるから、之れを五分の利息としても利息だけ年に四十億圓を拂はなければならぬ。日本は内債と外債と合せて二十億ばかりあつた、近頃は幾らか減つたが、元金が二十億位であつた所が英吉利は借金の利息丈で四十億圓も拂はなければならぬのだから、とても暮しが立たない。英

吉利が如何に國が大なりとも、如何に富んで居るといふても容易に拂ひ切れるものではない。又國の經費も戦争前よりは非常に膨脹して居る。經費が膨脹して居ればどうしても増税しなければならぬ。經常費だけでも増税しなければならぬのに、公債の利息だけでも四十億圓といふものが殖える。又皆人民から取らなければならぬものである。又戦争に行つた者には恩給や扶助料を遣らなければならぬ、其も僅の金で刎附けるのでなく、手厚く遣るのであるから大變なものである。英吉利は非常に富んで居る國である、併し心ある人は今や前途に絶望の聲を放つて居る。只政治家だけが樂觀的でどうかなくと言つて居るが、之は政策としてさういふはなければならぬ爲で、其どうにかなるといふ政治家の、説明を聴くと、一般の人は却つてどうもならぬと思つて居る。どうもならぬといふ事は、此頃になつて更に痛切に感ぜられて來た。さうしてどうにもならぬといふ事が本年四月一日に遂に具體的事實になつて現れた。即ち金の輸出禁止がそれである。英吉利は戦争中金の輸出を法律で禁止する事をしなかつた。佛蘭西も獨逸も皆金の輸出を禁じたが、英吉利丈は兌換で金計りでやつて居つた、『英吉利の富の力を以てすれば

負る事はない。戦争は金の彈丸金玉を投附さへすれば必ず敵を負かす事が出来る』とロイド・デューチなどが自慢の演説をした事があつた。其を日本でも眞面目に受て英吉利が金を持つて居るから大丈夫、英吉利の富の力を以てすれば必ず獨逸に勝てると思つて居つた。經濟學者も大抵さう信じて居つた。現に慶應大學の堀江博士は戦争が始まると戦時經濟財政論といふものを書かれて、英吉利の財政の充實して居る事を述べて居つた。今は絶版になつて居るけれども、若し行はれて居ると餘程具合の悪い事だらうと思ふ。然し日本人は總てさういふ風に考へて居つたけれ共、今や英吉利の財政は悉く悲觀絶望されて居るのである。それで英吉利も最近では兌換を停止し金の輸出を禁じて居る。故に日本は英吉利に數億の在外正貨を持つて居るけれども、之を日本へ持つて來る事は出来ない。喧嘩面をするか戦争でもする覺悟ならば持つて來る事も出來やうが、最近非常な哀願歎願の末漸く二千萬圓許り持つて來たといふ事である。日本の權利に屬する金が澤山あるが持つて來る事が出来ない。然るに其持つて來る事の出来ない金貨をアテにして、日本銀行では兌換券をドン／＼發行して居るのであるから、日本の物價が

騰貴するのは當然である。

戦争中金の輸出を禁止するのは先づ仕方がないけれども、英吉利は今日になつて禁止して居る。尤も今迄も表面だけ禁止しない有様ではあつたが、今度は表面上迄禁止する様になつたのである。之はもうさうしなければならぬやうになつたのである。之が最も有力に財政上絶望的地位に立つて居る事を示す者である。英吉利さへさうであるから、佛蘭西や白耳義露西亞等に到つては滅茶々々である。伊太利も無論非常に困つて居る、困らないのは亞米利加と日本、それから瑞典とか西班牙杯の中立國若くは中立的行動を執つた國だけで、戦争をやつた國は皆困つて居る。故に之等の國は戦後第一に富の回復に努めなければ借金を拂ふ事は出来ない。所が借金を拂ふには増税するより外はないのであるが、さうして増税した金は外國へ拂ふ者もあるが、大部分は國內に拂ふのである。國內の誰に拂ふかといへば資本家に拂ふのである。四十億の全體は國民が拂ふ、辛い思ひをして國民が出すのであるが、之は皆金持の所へ持つて行つて仕舞ふのである。故に只さへ貧富の懸隔が甚だしいのに益々甚だしくなつて困る。之は實に不可ぬとい

ふのが、今差掛つて居る英吉利の大問題である。之は佛蘭西も獨逸も同じ事で、苟くも借金をして居る國は總てさうである。亞米利加もさうである。亞米利加はまだそれほど差迫つて居らないが英吉利は今差迫つて居る。そこで之はどうかしなければならぬ、どうかするには之を踏飛ばして仕舞へといふ議論もある。三十年も四十年も國民を責附けて資本を益々富ませるといふ事は遂には大變な事になる。故に公債を踏飛ばして返してやらぬ事にして仕舞ふといふのであるが、而も言葉だけはさうでない事にして、事實さういふ事をやらうといふのが資本徵收税である。之は神戸博士が經濟論叢で詳しく論じて居られるが、つまり一言にして謂へば借金を踏倒すのである。然し形だけは踏倒すのではないやうに種々の方法を取るが、要するに事實は踏倒すのである。尤も財政上の問題は、大抵さうであるが、兎に角第一にさういふ方法が研究されて居る、即ち瞞着法が研究されて居るのである。

第二の大問題は不換紙幣の始末で、不換紙幣を兌換紙幣にするには金がなければならぬ。所が英吉利は金が足りない、足りないのではない、不換紙幣が多いのである、金は準備はしてあるが、然し各國も其必要を感じて居るから、英吉利へドン／＼金を取りに来るか、之は不可ぬ險呑であるといふので、近頃金の輸出を禁止して仕舞つたのである。英吉利はさういふ事をして兌換制度を回復しやうといふのであるが、之が爲に一番迷惑なのは日本である。日本は何億かの金貨を在外正貨として英吉利に持つて居る、之は英吉利で運轉資金とする事は出来るが、金貨として日本へ取寄せるといふ事は出来ぬ。尤も法律で禁止したといつても除外例はあるか分らぬが、兎に角原則として出来ない。所が其事は日本へは相談がなかつた。日英同盟の誼とか何とかいつて居るけれども、預つた物を返さんといふのである。金は預つて居るけれども引出す事は禁じて居る。日英同盟の誼も何もあつたものではない。

英吉利は先さういふ風にしてどうかにかかうにかやれると思ふが、佛蘭西に至つては殆んど絶望である。獨逸も其通り、露西亞に到つては滅茶苦茶である。故に之は現在の社會組織でやつて行かうとするから資本徵收税とか何とかいつて居るが、露西亞のやうに過激派に

なれば譯はない、さうした借金は踏飛ばして仕舞ふ。さうでもしなければ全く始末が附かない、始末が附かない時には之も一つの方法であらう。どうしても仕方がない、どうしても死んで仕舞ふといふ時にはやる外はない。過激派などもさう考へて居るのだらうと思ふ。獨逸も聯合國が餘り無理な要求を課すればどうするか分らぬ。どうせ死ぬならば一つしかない命だ、先へ捨てるか後へ捨てるかの違ひだといふので、どんな事をするか分らぬ、餘り極端な事をするとな露西亞の過激派のやうになるかも知分らぬ。英吉利だつてさうなるかも知分らぬが、マアどうやらかうやら、やらうと思ふから苦心を要するのである。つまり體裁を餘り悪くしないで、此大問題を片付けやうといふのであるが、而も富と國民の働きには限度がある。殊に戦争の爲めに有爲な青年が澤山死んで居るから暫くの間は労働力は減る、又生産上の資本も大部分戦争の爲めに費されたから、自國の生産を以て國家に必要な富を回収する事は難かしい。それで難に十九世紀後半に於て侵略的になつた英吉利は、今後愈々侵略的になるより外はないと思ふ。自分の所で間に合はなければ他人の物を失敬する外仕方がない。他人の所から失敬するのが一番平和なる

理想的方法である。

借金をすれば利息を拂はなければならぬ。けれども金を貸せる國は亞米利加の外にはない、亞米利加は幾らでも金を貸せる、故に英吉利はどうしても亞米利加と離れては不可ぬ。亞米利加とは利害の衝突とか人種的憎悪心があるにしても、此所暫くは離れられぬ。乃で事毎に亞米利加とクツ附いて居る、實際はロイド・ジョージとウヰルソンとは意見が違つて居るのである。殊に海の自由といふ事は意見が違つて居るのだが、さういふ譯で當分は英米は同心合體になるより外はないのである。夫れで戦争前は獨逸露西亞といふ者があつて波斯印度方面を脅かして居つた、其の番兵は日本にさせて居つたが、今は其露西亞も獨逸もないから番兵の必要もない、故に日本と手を握る必要がなくなつた。乃で其代りに英米同盟或は佛蘭西を入れて英米佛同盟を鞏固にする事が必要である。さうするより外はないといふ事になつて來たが、さてさうなるかどうかは未だ將來の事であるが、兎に角亞米利加から金を借りれば利息を拂はなければならぬ。之は矢張り辛い。故に之は他人の所から取るより外はない、即ち正直なる日本語で言へば泥棒をする、

掠奪をする外はないのである。そこで掠奪は何所でやるかと云へば支那である所が支那から取つて行くのに邪魔になるのは日本である。取つて行くといつても之れは私が極端に言つて諸君に印象を強くする爲めであるが、つまり高利を取る事である。支那から高利を取つて自分の借金の安い利息を返すのである。それから只利息を取るばかりでなく金を貸付けて種々の政治上の権利、所謂利権を取らうといふのが之が支那に對する新借款團である。

今迄の四國借款團には米國は入つて居なかつた。英佛日白の四國で亞米利加は自由行動を取つて居つたが、それでは困るといふので今度は亞米利加を入れて新四國借款團が出来上る事になつた。此借款團を拵へる目的は、今迄よりはモット進んで支那に對して借款一切を引受ける、さうして其借款を外交と密接に結附けやう。金を貸放しでなく一般外交の背景を爲す様に、外交との關係を密接にしやうといふのである。所が現内閣――政友會内閣は之に賛成して之に加はつたといふ事が新聞に在る。之は將來の問題でどうなるか分らぬけれども、英米佛からいへば日本は入つて貰はないが好いのであるが、

然し日本を除ける事は大問題だから、厭々乍ら日本を入れたのである。故に機會さへあれば日本を打棄りたいのであるから、日本が少しでも強い事を言へばサツサと打棄り出すに相違ないと思ふ。日本では支那に對して幣制の改革をさせるといふので、阪谷男が其顧問に頼まれる事になつた。話は九分九厘迄出来上つた後の一厘で駄目になつたのである。それで日本では甚だ残念だといつて居るが、私は却て結構だと思ふ。何故ならば、阪谷男が行つて幣制を改革統一すると日本が邪魔にされる、さういふ場合英米のやうな悪黨を向ふに廻してやるには、阪谷男のやうな君子では不可ぬ。日本には小さい悪黨は居るけれども、どうも大きな悪黨がない。支那問題の如きは少し悪黨が欲しいと思ふ位であるから、阪谷さんのやうな人格の高い人は手腕はあつても駄目だ。故に阪谷さんが行かれなかつたのは、阪谷さんの爲めにも日本の爲めにも結構だと思ふ。兎に角斯くの如き問題が續々起ると思ふ其度に日本は何時も邪魔にされて目の仇とされると思ふ。

今や英米の資本的侵略主義は到る所世界を脅かさんとしつゝあるのである。講和條

約が調印される事になれば、此傾向は一層明かに現れて来るに相違ない。従つて日本の産業は非常に壓迫されるに相違ない。或ものは全く蹂躪されるかも知らぬ。乃で『日本も之れに對抗してやらなければならぬ。先方が侵略的に来るならば此方も侵略主義で行かう。先方が帝國主義なら此方も帝國主義を執らなければならぬ』といふ者もあるが、私は之は實に危険であると思ふ。さういふ事は考へるだに危険だと思ふ。今の日本に於て一番危険なのは此の經濟的帝國主義の思想である。此經濟的帝國主義の議論は如何にも尤もらしく人の頭に入るものである。一寸語呂も好い。『今や戦後の經濟戦の幕は切つて落された、日本人たる者大に奮發しなければならぬ』杯といふと調子が好く人の耳にも入るが、之が危険なのである。經濟戦などといふ事は英米のやる事で日本などのやる事でない。日本などはソんな事をやる柄でない、獨逸は極力經濟的帝國主義を執つて英米に對抗して進んだ、さうして餘程成績を挙げたけれども、其結果は今回の戰爭で滅茶々になつた。經濟上の利害衝突を來して歐羅巴中から憎まれたといふのは、獨逸が極力經濟的帝國主義を執つた爲めである。獨逸の王道といふものは之は經濟的帝

國主義に外ならぬ。軍國主義も經濟的帝國主義の爲めに執られたものである。

經濟的帝國主義を遂行する爲めには、軍國主義を執つて何時でも戰爭が出来るやうに準備しなければならぬ。其爲めに獨逸は軍備を擴張し殊に海軍の大擴張をしたのである。獨逸は軍國主義を以て昔に戰爭の起つた場合のみならず、平時に於ても獨逸の利權を擴張するに必要なものとして居つた。其結果は即ち世界中から憎まれて袋叩きにされて滅茶滅茶にされたのである。獨逸の如き國でさへさうであるのに、獨逸ほどの富の力も軍隊もなく又地位も悪い所に在る日本が、今更其眞似をして經濟的帝國主義杯といふ柄にもない事をやれば叩き壊される。其でなくてさへ日本は今や世界嫉視の的になつて居る。獨逸をヤツツケたら其次は日本だといふ事は期せずして歐米の政治家の胸に浮んで来る事である。それで戦後日本が經濟的帝國主義を執つて經濟戦を始めたならば、彼等は必ず益々憎悪心を以て日本を見るやうになる。さうなれば獨逸の運命は必ず日本の運命になる。私はそれを憂ふるのであつて決して英吉利を憎むものでない。亞米利加も憎くはない。只日本が困る事を憂へるのである。日本人は國を愛する念が

強い。然しいくら愛國の念が強くても、経済的帝國主義を執つて經濟戰をやるには力が足りない。日本にはまださういふ力がない。力がないのにさういふ事をやるのは實に危険である。

獨逸が負けて聯合國が勝つたといふけれども、獨逸が負けたのは事實であるが、英米佛等に負けたのではない。之は私が始終言つて居る事だが、聯合國の勝利は實は拾つた勝利である。自分は勝つたといふが實は拾つた勝利で、自分の撃つた彈丸は的が外れて何處へか行つて仕舞つた、さうして他所から放つた彈丸が敵の足元に中つて勝つたのである。戰爭で勝つたのではない。獨逸が負けたのは確である。然し之は戰爭で聯合國が勝つて獨逸が負けたのではない。元來勝負といふのは一方が勝つと同時に一方が負けるといふ瞬間に在るものであるが、今度の戰爭は勝つた戰爭と負けた戰爭とは別々であつた。かういふ戰爭は實に今度が始めてあらうと思ふ。實は獨逸は聯合國が勝つた時よりも餘程前に負けたのである。それを聯合國は知らなかつたのである。其ならば獨逸を負かしたのは誰かといふと社會黨である。露西亞を負かしたのも社會黨の過激

派であるが、獨逸を負かしたのも矢張り其れである。即ち社會黨中の最も純正な形の過激派である。今日の日本は社會主義が來やうが過激派が來やうが何等危険はない。然し日本が若し非泥棒的の態度を捨て、少しでも泥棒の方へ足を踏込んだら危ない。此者生道に足を踏込んだらそれこそ危ない。然し乍ら日本は二千年來常に非侵略的態度を執つて居つたから、先づ今日はさういふ危険はないと思ふが、若し此態度を捨て、侵略的になると、獨逸の如く露西亞の如くならぬとは保證し得られぬ。

獨逸の社會主義がとう／＼國を顛覆し、露西亞の過激派が國を滅茶／＼にしたのは全く獨逸や露西亞が侵略的主義、泥棒主義を執つたからである。泥棒主義を執つたから之に對抗して、即ち毒を以て毒を消す所の反對毒として過激派のやうなものが起つたのである。田中幸一郎博士は普通選舉尙早論といふ論文を新聞へ出して、獨逸は普通選舉を早く行つたから今度の様な事になつたと言て居るが、之は事實と違つて居る。普通選舉を行へばなるほど社會黨の数は増すだらうが、然し数が増すといふ事と力が増すといふ事とは違ふ。社會黨が獨逸を顛覆す力になつたのは極く最近の事である。戰爭が始まつ

てからも二年も三年も経つてからである。つまり侵略主義が行詰つて侵略主義では行けぬといふ時に、其代りに社會主義の力が出て來たのである。

然し乍ら日本に於てはさういふ事はない。然し今後日本が假に侵略主義を取つたとして、英米佛等に挟み撃ちにされるやうな場合があつたとする。さうして社會主義が日本を覆へさうといふやうな事があつたとしても、日本には侵略主義に代るものがない。獨逸は侵略主義が行詰つた瞬間に於て社會黨が之に代つた。けれどもまだ力が十分でないから、天下を十分に治めるといふ迄にはならぬが、エベルトなどが兎に角どうにかかろにかやつて居る。露西亞の過激派などは日本で思つて居るよりは餘程よくやつて居る。レニンやトロツキは兎に角天下を取つてやつて居る。

此過激派といふものが危険なのであるが、然し日本に取つては前言つたやうに何でもないと思ふ。此頃の新聞に葉書を軍隊に送つて宣傳をやらうとした者があるといふ事が書いてあるがソナ事は何でもない。一般の頭がソナ事で過激派に感染する様な淺薄なものであつたならば、は幾ら防いでも仕方がないが、日本人はソナ馬鹿ではな

い。又西伯利へ行つて居る軍隊が過激派の思想に感染して來るといふ事を心配して居る者もあるが、ソナ事は恐くはない。乍併之に經濟的の即ち經濟上の實際上の力が加はるといふと之は恐い。さうなれば實に危険である。日本が侵略的經濟主義を執るやうになると、國內に於て必ず之に拮抗すべき經濟上の力が起る。何といふても必ず起る、即ち労働階級の力である。茲に於て労働問題は最も大なる問題となる。然し労働問題といふても賃銀を増して貧乏を緩和してやる、即ち利益さへ與へてやれば其問題がなくなくなるかといふにさうではない。さういふ事で労働問題がなくなれば歐羅巴諸國では既になくなつて居る譯である、所が矢張り労働問題は止まない。つまり貧乏は最も根本的の者ではない。齊しからずといふ事は根本的の弊害ではないからである。貧乏の差といふものは當然あるべきもので、取除く事は出來ないものである。然し之に階級的の憎悪心が結附くと、其所に不安を生ずるやうになるのである。

經濟上の利害問題と階級的の憎悪心、即ち生活の不安と精神の不安が結び附く時に、社會上の不安、労働の不安を生ずるやうになるのである。此不安は國が侵略的に即ち經濟

的帝國主義になればなるほど強くなるものである。ロイド・ジョーヂ内閣などは労働者の養老保険とか最低賃銀の制度とか種々の事をするが英吉利では矢張り労働紛争が止まない。幾らソナナ事をしてても根本に於て侵略主義を執つて居る以上は駄目である。それで普通選挙にしたら防げると思ふ者もあるが私はソウとは思はない。普通選挙にして多くの代議士を送り出した所が生活に何等の關係はない。又今日の制度で選挙権を擴張するとか普通選挙にした所が代議士に大したエライ人ばかり出ない。普通選挙にする事は無論必要だが何も大騒ぎするほどの事はない。獨逸の社会黨は其の出来た時には普通選挙と生産組合の二つを標榜したが、ビスマルクは敵の刃を取つて千八百六十九年に普通選挙を與へたのである。之が爲めに社会黨の最初の結社は氣が抜けたのである。

さういふわけで日本でも普通選挙々々といつて騒いで居るが然し普通選挙といふものは決してそれほど御利益のあるものではない。之はホンの病を癒すのに膏藥を張つて切張をするやうなもので、根本に於て侵略主義を執つて居つたら何にもならぬものである。

ある。故に眞に労働問題をなくしやうとするには、先づ侵略主義を執らないやうにしなければならぬ。所が日本は従來侵略的でなかつた今日も侵略的でない。私は之が日本の唯一の誇りであると思ふ。私は日本國民たる事を誇りとするものである。河上博士は自分は日本國民として何も誇る事はないと言れた事がある。然し乍ら私は日本の國體は實に世界に誇るべきものであると思ふ。名前は何と附けても可い。只日本の國といふものは實に日本の誇りであると思ふ。大學者が出たとか大文學者が出たとか或は領土が廣いとか、又は富の力等に於ては日本は到底誇るに足りない。陸軍の強いといふ事などは今日多少誇るに足りるかも知れないが、日本の國として泥棒をしない、侵略的でなかつたといふ事は實に誇るべき所と思ふ。尤も足利時代には倭寇などが少しばかり泥棒をしたが、然し國家的泥棒をした事はない。國を擧げて海賊を働いた事はない。獨逸のやうに國を擧げて侵略的行動を執つた事はないのである。佛蘭西は今日は餘程日本に似て居る國であるが、其代りどうも餘り發達して居ない。然し昔は佛蘭西も泥棒を働いた事があるが、ナポレオンが失敗してからは餘りそれをやらぬやうになつた。それ

で日本の仲間を求めれば先づ佛蘭西である。

故に日本と佛蘭西は將來非侵略主義非泥棒主義を發揮して非侵略主義の模範を示さなければならぬと思ふ。それで日本の國是は侵略的ならざるを要すといふ事にすれば、社會問題はさう心配する事はない。過激派なども少しも危険視するに足らぬ。所謂國本は半平として動かすと思ふ。資本家等は戦争があると儲かるものだから常に事あれかしと待構へて居る。故に國が非侵略的になると彼等は困るだらう、彼等は只金さへ儲ければ可いのであるから、常に經濟的帝國主義を十分發揮しなければならぬなどと言つて居る。此頃は幾らか黙つて居るやうだが又時節が來ると言出すと思ふ。故に私は諸君に警告するが、成金が何かに關係がある者と思つたら、何々博士などといふてもソノ者の言ふ所は餘程警戒して聽かなければならぬ。吾々のやうな貧乏人は言ふ事は間違つて居るか知れぬが、然し何等背景がない爲にするといふやうな事は何にもない。爲めにするといへば日本の爲めにするもので、或る人の爲めにするやうな事は斷じてないが、世間には随分さうでない議論をする者がある。即ち本當に日本に侵略主義を執らせ

るといふ見込はなくても、幾らか侵略主義を執らせて其間に漁夫の利を占めんとする者があるから、十分警戒しなければならぬ。殊に支那に對する所の議論は大に警戒しなければならぬ。若し支那に對してモット利權を得やうなどとするならば、之は驚くべき結果を起すやうになる。

其一つの例は、今度の四國借款團に猛烈に反對する者が日本の實業家の中に在る、表面には反對を言はないけれども内々反對して居る者があるから、或は其反對運動が現れて來るかも知らぬと思ふ。何故反對するかといふと支那は莫大の金が必要である。けれども金を貸す事の競争は日本は到底亞米利加や英吉利には適はぬ。仲間へ入れば日本は何時も割が悪い、故に日本は其仲間に入らないで別々になるが可い。日本は涙を流し血を絞つて拵へた金を貸すのだからよくの利益がなければならぬ。只の利息では不可ぬ。所が支那には財源はあるのだから、假令利息がなくても其財源を得るやうにするが可いといふのだが、之が甚だ險毒である。或は之が爲めに國を誤るかも知れぬと思ふ。殊に支那との貿易關係の深い大阪以西に於ては、さういふ思想が人を動かす力が餘

程大なるものがあるといふ事を私は恐れるのである。戦後の經濟問題としては、特に支那に對して非侵略主義を標榜する事が必要である。即ちお互に利益は求めるが經濟戰をやる様な事はないといふ事を明かにして行けば、英米の資本的侵略主義に幾らか對抗する事が出来ると思ふ。さうすれば或は英米の資本的侵略主義に負るかも知れぬが、然し日本はさういふ事には負けても構はぬ。飽迄非侵略主義を以て天下に立つといふ覺悟を決めて掛つて貰ひたい、私は特にそれを希望する。

支那に對する新借款團に就ては其真相は未だ十分に分つて居らぬが、今日迄に知れて居る處によつて判斷すると、これは米國が向後支那に於て其の資本的侵略主義を赤裸々に發現すべき第一着手らしいのである。今日までは米國は借款團に加はらなかつたのに、今になつて急に自分が發頭人となつて、日佛英を誘つて別に新しい一つの借款團を作つて、而も之を外交と密接に結付け又舊借款の利權は悉く新團に引繼ぐ可しと言ふは甚だ眉唾ものである。併し我邦一部論者の主張するやうに、日本は此仲間に入る可からずとすれば如何かと言ふに、サラデだに支那と日本とを疎隔せんとしつゝある傾向を益々

強大とすることになる外はない、これは實に危険千萬なことである。實業家や銀行家は、日本が仲間外れをして、單獨に甘い汁の吸へるやうにしると要求するのだが、これは我田引水も甚だしい、殆ど國を危うする底の我田引水論である。米國の底意は決して公明正大とは思はれぬが、日本獨り仲間外れをすれば向後支那は全く英米の資本の蹂躪に一任する結果を生ずる、日本は仲間の一人となつて居つて極力之に對抗す可きである。眞に支那の開發發展を來すやう、而して支那を壓迫することなきやうするには、日本は仲間に入つて居て盡力せねばならぬ。一人抜け者になつて居てはソレは六ヶ敷い。此點を好く考へて呉れなければ困る、單に銀行家の算盤玉許りで國是を定めて呉れては困る。日本は仲間に入ると言ふ大方針を定めて置いて、而して不都合な點はドシ／＼抗議して改めしむ可きのみである。政府攻撃の爲めに何でも彼でも攻撃して、仲間脱退を執行すべしと云ふ反對黨は、國を以て黨利の犠牲とすると云ふ謗を免れまい。外國に對する問題を政争の道具に使ふことには金輪際眞平御免を蒙りたい。斯く言ふも、新借款團が結構と云ふ意では勿論ない。惡魔と會食する時は長き箸を用ゆ可し、此覺悟さへ確かりして、

居れば仲間入は無論せねばならぬのである。以上言はんとしたこと半分も盡して居らぬが、兎に角戦後直に起り来るべき當面の重要經濟問題の二三に就て卑見を述べたのである。

|| 大正八年中國民報社主催講演會講演、同六月十日以後「中國民報」掲載 ||

附録一 放擲せられたる暴利取締令

寺内内閣の物價調節は哀れ失敗に歸したが、一つ甚だ結構なる置土産を残した、其は暴利取締令である。然るに原内閣の山本農相は之を傳家の寶刀として鞘に收めた切り一度も用ひぬ。其は仲小路氏が無暗矢鏢に寶刀を振廻して、却て我れで我身を滅ぼしたに懲りたからでもあらうが、我々は山本氏の誠意に可なり多くの信頼と期待とを置いて居る一人として、暫らく批評を差控へて徐ろに同氏が何事を爲すかを拜見す可く今日まで忍耐し來つたのである。

然るに教育機關の大増設と云ふ甚だ歓迎す可き積極的施設に着手するほどの餘裕を示す現内閣は、今日迄暴利取締に就て何事も爲さず其儘に放擲して居る。米價調節、物價調節のことも何等の積極的效果ある所置に出て居らぬが、其事は今暫らく隠忍するとしても、茲に最早隠忍し能はざるは、暴利取締の怠慢是れである。戦争は終つたと云つても、物價は俄に下るものでないと言ふ迄もないが、當然下る可くして下らぬものが少からずある。而して其中一部の

奸商の獨占によつて戦時價格が其儘に維持せられて居る物の妙からざるは須知の事實である。一例を擧げて見れば、紙價の如き其の甚しきものである。聞く所によれば、一部の新聞社は紙商又は製紙會社との特別協定によつて低廉なる用紙の供給を受けて居るが、同一質の紙も其以外の者には高き價でなければ賣渡さずとの事である。而も其低廉なる價は無論製紙會社や紙商に損失を來す價でなく、否相當の利益を齎らしつゝあるものであるとの事である。然れば常識の判斷に訴へても、他の人々に賣渡す紙に就ては莫大なる暴利を占めつゝあるものと推定せざるを得ぬ。

米が國民の食料として不可缺が如く、紙は文明國民の精神的食料として不可缺物である。故意に此紙を不廉ならしむるは國民の精神的食料を壟斷する物であつて、其不都合は米の買占賣惜みに比して決して劣るものでない。然るに米に就ては増買とか岡半とかの輩は暴利取締令にいつて取締られたが、紙に就ても増買、岡半同様の輩があるに相違ない。何故に其を取締らないかとは我輩が久しき以前より公論しつゝあつた處である。乍去米價調節の不成績に夢中になつて居た仲小路氏が、紙の問題に注意が及ばなかつたは多少恕するに足る。山本現農相の如く白紙から出立して冷靜に凡ての物價に就て十分思慮を施す餘力を存して就職した人が、此問題を等閑に附して置くのは甚だ以て心得ぬ事である。無論紙のみではない他にも同様な物がある。米價に就ては種々面倒な問題があるから早急に着手し得ぬとの口實を許すとしても、他の此等のものに就て暴利取締の手を全く休めて仕舞つたに至つては、我々は今や漸くにして原内閣の特に山本氏の誠意を疑ふ可く始めねばならなくなつた。現前の問題をすら放擲して置く以上、我々は山本氏の米價調節に對する眞意果して那邊にあるか、通貨過増に對する誠意果して存するかを疑問にかける可く餘儀なくせらるゝのである。斯くては政友會は財閥黨なりとか三井黨なりとか云ふ京童の惡口も、全くは之を斥け兼ねることゝ

なりはせぬか。我輩は今日に於て未だ左様の評語を承認せぬ者である。否我輩は原内閣の出現を大に歓迎した心持を今日迄まだ失はざるものである。又教育機關の大増設を善意に解釋せんとするものである。但し多少黨勢擴張してふヒンテル・ゲダンケの存するは否み得ぬが、其は今日の政黨としては致方ないともあり、而して此場合は寧ろ善の善と考へて居る。而して又山本農相の誠意に就ても、出来るだけ善解を維持せんと欲しつゝあること勿論である。特に過去の内閣に於る同氏の態度に就ては、大體に於て十分の敬意を表するを惜まぬものである。従つて今日の無爲を遺憾とすること更に一層痛切ならざるを得ぬ。無能無爲の農相、誠意なき農相であるならば、我々は始から何事も期待せぬ。唯一日も早く其職を罷め去らんことを欲するのみである（堀江博士は高橋蔵相に對して此態度を言明せられた（中央公論）。我輩は高橋氏に就ては大なる疑を有して居るものであるが、今日は未だ堀江博士程ラヂカルには考へて居らぬ）。然るに氏に對しては餘程期待する所あるだけ、其れだけ今日迄の無爲を甚だ遺憾とするものである。米の問題に就ては山本氏は其政策を一變したと傳へられ、近くは農省中頭腦優秀の點に於て岡君と並稱せられた片山義勝氏の辭職を見たに就て、我々は不安の念を起さざるを得ないが、然し何れ山本氏は十分自信を有することと思つて居るが、他の問題に就てすら全く何事も爲さざるを思ふにつけ我々は好意の不安の度を高めざるを得ぬものである。願くは農相は寶刀も要ある時は之を抜いて奸商を退治す可き義務あることを忘れざれ。而して紙の問題に就て我輩の甚怪訝に堪へざるは、何故言論の機關に參する人々が其當然の權利を行使して、紙に就ての暴利取締を公然と要求せざるかの一事である。紙の高價はあらゆる人々に苦痛を與へ、小學兒童さへも其に苦しみつゝあるが、特に最も痛切の利害を感じるものは、言論の機關に參する人々である。而して彼等は其苦痛の救済を訴ふ可き機關を自ら有する人

人である。然るに新聞にも雑誌にも一向其事の訴へられざるは何故であるか。餘程以前に此事と第三帝國の石田友治氏と相語つた事がある。予曰く君の如きは紙の高價に苦むこと尤も甚しき一人なる可し、何故猛然と起て其事を天下に絶叫せざると。然るに氏は自ら卑下して曰く、予の如きものが絶叫したりとて効はなし、更に有力なる人士の起つを待つ外なしと。予は甚だ之を残念に思つたから、爾來人に會ふ毎に其事を繰返し來つたが、此頃始めて宮武外骨氏に面して其の事を繰返したら、其は可なり、願くは『民本主義』第一號に其事を論ぜよと答へらる。仍て予自ら陳り始むる心持で此短文を草す。願くは此問題が天下一品なる宮武氏の健筆によつて暴利退治の一運動が有力に開始せられんことを。是れ實に宮武氏の民本運動の具體的の一事業たるに値するものと思ふ。（八、一、十四認む）

|| 大正八年三月『民本主義』掲載 ||

附録二 呪ふべき平和

獨逸の調印は愈今二十八日と報ぜられた。抑も動亂の初一聲を揚げた五年以前の此日は、斯くて世界永遠の平和を來すべき新時代來の記念日となるのであるが、今や世界改造の聲に呼び醒まさるゝ一方、歐米の其所此處には頗る社會運動が頭を擡げつゝある。獨逸の軍國主義は打破し盡したとするも、其が果して永遠に平和の時代を劃するの否、法學博士福田徳三氏は是に對して語る『平和！それは私から見ると呪ふべき平和である、戦ひが濟んだといふだけでは眞の平和とは斷じて考へられない。獨逸に課した聯合國の條件は餘りに重い、けれ共獨逸に取つては調印しなければならぬ破目に陥つた、已むを得ない事からで、恐らく調印派其人の心の底にも不満足が潜んで居やう。乍併獨逸がこ

の條件を守つて行くなば、産業も學問も凡て衰へ果て来るべきは只亡國のみである。私は獨逸としてそれ程までに意氣地が消えたとは思はぬ、機に乗じて必ず頭を擡げると見て居る、再び彼は軍國主義を楯に執らぬとしても、國民としての生存の權利を主張しよう、恐らく露國同様の状態となるではあるまいか、獨逸は今日迄社會主義と惡闘して來た。然し國民が生存を維持して行ける間はよいが、それが不可能となるとガラリ心機一變するより外ない、其一變は獨逸に取つて決して幸福でないが斯うなる以外に方途があるまい。つまり社會主義を消極的にして解體する事とならう、政治上の國家ばかりでない社會組織は減茶苦茶になる。處で其變化は無論直に將來するものではなく、聯合國から生活の必需品を貰ふ間もある。英の封鎖が完全に解ける間もある、債金の支拂も一度位あらう、其内には國內の公債、不換紙幣の處置、軍隊解散後の始末等に追れて來るが、此難關を處理する事は逆もパウエル内閣などの力にあるまいと思ふ。プロイセンに對する他の聯邦の反感も強い、獨逸の社會黨は破壞黨として力あるが積極的に無力である階級戰爭は社會黨の生命である、此思想は佛に萌し英に萌して來た世界の改造もよいが、斯して改造はたゞ悪い方面に進みはしないか、小獨立國の現出——ユーゴスラヴ族の獨立は決して結構でない、言はゞ第二の塊地利でないか、元來此等は社會黨の手に依つて出來上つたものである、發達すれば爲る程社會黨の力は歐米の天地に澎湃して來る。若し彼等一味の宣傳を壓迫すれば一大反抗が來やう、力弱き小獨立國は却て爭亂を醸す策源地であつてパチルスの發生地を應々造つたも同様、ユーゴスラヴと塊國間には獨佛以下の紛争が絶えまい、伊塊の間も然りで事端は愈々繁くなり國家の間に戰爭の機會多く社會的には平和に脅かされて來る、想へば戰前よりも更に平和が遠くなつた。又米國が歐洲に出酒張つた事は今後の紛争を一層多くして、今後機會ある度に歐洲へも或は日本へも口を出すかも知れぬ、

此では到底納まりが着くまい。私は今度の調印は永遠に世界の騷亂を封ずる鎖鑰とは思つて居ない。

||大正八年六月廿六日『東京朝日新聞』掲載||

附錄三 生活問題の恐怖來る

米價を始め一般諸物價は今や空前の大暴騰を來たし、我國民生活は將に一大脅威を受けつゝあるに、當局者の無爲無能なる此の重大時機に際して只茫然自失せるものゝ如く、何等の對策を講ぜんともせざるは何事ぞ、斯くの如くして今二三ヶ月も荏苒日を重ねるに於ては遂に戰慄すべき結果を招來せずとも限られず、四月末をドン底として米價を始め一般物價は漸次騰貴して來たが、此の現象は一つの季節的變動であつて一面市場の事情にも因るものであらう、而して夏に向ふに従つてチリ／＼か或はかなりの速度を以て更に騰貴して行くに相違ない、昨年の經驗に據れば、十月まで騰貴の傾向を續けてゐたから今年も秋までは此の勢ひで進んで行くものと思ふ。一體此の季節的變動には自然的のものと心理的のものとあつて自然的の最も著しいのは米で、今や漸次其の收穫期に向つて行くその準備が爲されつゝある。心理的の季節的變動に就て、近來日本の市場心理を觀るに年の半に向つて常に活氣が加はり、一月から四月頃までは鎮靜してゐるやうである、此活氣附いて來た時に、恰も講和條約の調印は目前に迫つてゐるので、所謂強氣の材料は甚だ有力なものがある、又市場の季節的心理は戰時中に於て最も機敏に働いて人氣上向きの傾向を示すものだが、休戦となつた今日なほ依然として其勢ひが續いてゐる、之が爲め例の思惑即ち賣惜み買占めが盛に行はれるのである。殊に砂糖綿絲の如きは最も極端に行はれ綿絲も對外的にはさうである。今日米價の騰貴は實に空前である。

が、砂糖綿絲も實は甚だしいものである。此の點から云へば昨年よりは一層國民的生活は脅かされてゐる筈だ、米の如きは昨秋の騒動の八月否十月頃よりも更に高くなつてゐる。而して此の趨勢はなほ持續するであらうが、昨年の米騒動の理由に説明し得る何ものかゞありとすれば今直ぐには考へられないが、近き將來に再び米騒ぎが起らないと誰が斷言し得やう、我々は實に其を恐れるのである。過去數ヶ月間獨逸の降服に次いで巴里の講和會議に世界の人心が集中されてゐて、我等國民も山東問題・西伯利問題に興味を惹かれ、姑く國內の生活問題は忘れられてゐた。此の間は人心の落付いた時で當局者が物價引下策を講ずべき絶好の機會であつたのである。然るに當局者は所謂『賣リ抜くべからず』『不言實行』主義を振り廻してゐたが、今日は將に不言不行の結果に陥つて居る。我々も亦た當時當局者が折角何事かなさんとしてゐるものを邪魔してもと思つて遠慮してゐたが、今日に至る迄終に何事をも爲し得なかつたではないか、巴里全權委員の無能も元よりだが國內當局者の無能は更に甚だしいものがある。然しさうは言ふものゝ未だ時機が全く遅れたのではないから、若し眞に成算がありとすれば今の中に策を施さなければならぬが、今日その端緒さへ出来てゐないところを觀ればその成算さへないのではないか。斯くの如くんば結局前内閣の轍を踏むより他に途はあるまい。米に就ては支那米、西貢米の大輸入を云々してゐるが、幸ひにも之が實現されても他の諸物價は何うしやうとするのであるか、『人はパンのみによつて生きるものに非ず』日本人は米だけ喰つて生きることは出来ない。他の諸物價は如何に騰貴しても構はぬといふ當局の意見ならば仕方がないが、若しさうでなかつたら過去に於て爲すべきことは澤山あつたではないか、即ちその第一は兌換券の縮少である。所が大藏省では頑冥にも、今なほ通貨の膨脹は物價に關係なしといふ意見を固持して、盛んに外國の雜誌や學者の意見を翻譯して配つてゐる、その努力や嘉すべしだ。併し適確なる事實のあるは何うしやうもないではないか。尤も五月になつてから發行高を何分か減じたやうではあるが、之さへ毎年の常例現象で決して内閣の力とは云へない。従つて又元へ戻るかも知れないのであるから、此の際根本的に方針を樹て直す必要があるのである。勿論此の通貨の縮少といふだけでも未だ物價の騰貴を押へるとは出来ないが、私の觀るところによれば、各種の原因中最大なものであると思ふ綿絲綿絲もさうだが米の如き日々騰貴して行くが、當局者の云ふが如く單に需要供給の關係ならば、昨日と今日とたゞ一日の差で斯くの如く變動がある筈がない、矢張り思惑が最大の原因であるが、その思惑を獎勵するものは通貨の膨脹である。假令若干の膨脹でも景氣を煽つてそれが物價に影響することは極めて大であると云はねばならぬ。換言すれば奸商の跋扈を獎勵するやうなものであるから、若し前内閣の所謂奸商取締を必要とすれば、今日は更に其必要が大であること疑ひを容れぬ。但し單に征伐するだけでは全く無効力で一定の標準を樹てなければならぬのに、當局者は數ヶ月前から調査してゐながら、今日に至るまで何事も爲し得ないでゐる、恐らく二三ヶ月間に他の何事を措いても力も盡さねばならぬ時機が到來するだらうが其の時は既に遅過ぎだ、着手すべき秋は今である。然し今の當局には何事をも爲し得まい、私は確信を以て之を斷言することが出来る。さうなれば内閣は當然責任を負はねばならぬが、たゞ迷惑するのは國民である、私は現内閣に多大の同情を持つが故に之れを惜しんで止まない。

|| 大正八年六月二日『やまと新聞』掲載 ||

十一 戦後の金融及貿易に於ける日英の關係

金融と貿易、戦争前には世界經濟團別に一つの團體を造つて居つた譯ではないが、世界中の文明國は勿論稍文明に赴ける國は相互密接の關係に依りて今日の世界經濟團を形成して居つた、之が戦後如何になるかと云ふ事は大問題である。何故かと云へば、世界經濟には一つの中心點があつた、夫は英國である、英國が世界經濟の内では一番肝要な部分にあつたから自然に中心點となつたので、英國と關係を結んで各國は其金融の大動脈に繋がつて居つたので、之が爲めに世界經濟の發達は顯著であつた。所が英國は金貨本位國で、日本も同じ金貨本位國であるが、日本は日本自らの必要に依りて金貨本位を採つたのでなく、世界經濟上の必要から左様したのである、國內で金貨は要らないが、外國との關係上に金貨本位を採用したのである。即ち日本では明治三十年に支那から償金を取つた、

之を幸ひにして金貨本位としたのである、自分の必要によりて金貨本位にして居るのは英國許りである、英國は世界の經濟金融の中心點であつたから、其中心點と連絡を取らんとするには勢ひ其國の貨幣本位によらなければならぬから、日本も金貨本位を採用したので、議會などで大藏大臣は日本は段々貿易が發達したから、銀本位を捨て、金本位にしたと説明してゐたけれども、夫れは當座の胡魔化してある、議會などの説明は十中の八九は胡魔化してある、其證據には大藏大臣の説明は大抵實現しない、よく外れる、初めから其積りであつたのではない、英國と取引するには金貨本位にして置けば都合が好いのである。銀本位では爲替相場の變動を免れない、今支那がそうです、日本が若し明治三十年に金貨本位にして置かなかつたならば、今度の戦争に對し支那と同じ様な地位に立つたに相違ない、戦争の爲に日本には成金が出来たが支那には成金は出来ない、此戦争の爲に經濟上何等の利益を受けて居らぬ、世界各國は戦争の爲に生産が止まつたに就ては、多くの品物は幸ひ日本で出来るやうになつて居つて支那の工業は幼稚であつたからである、其爲めに支那は此の千載一遇を利用することが出来なかつたのも確であるが、第一の原因

は支那は銀貨本位國であつたからである。戦前は大變金の價が下落し銀の方が騰貴した爲め、輸出は大變困難になつたが輸入は樂になつたが、戦争の爲に支那は利益を蒙らない、又個人の成金も出来なかつた、之を考へて見ると、日本は明治三十年に金貨本位を採用したのは洵に有難いことで、當時松方侯爵は非常な反對論があつたに拘らず之れを斷行したのであるから、今日の成金連は大に感謝しなければならぬ。若し日本が銀貨本位であつたならば、戦争の利益は餘り獲得することが出来ないのである。此戦争の爲に金貨本位が非常に役に立つた。此の如く國內の必要はチツともなかつたが、世界の貿易の仲間に入つて其中心點との關係が密接になつて來た爲である。日本自身には金貨本位の必要はない、誰も金貨を有つてゐない、金持と雖も有つてゐない、吾々は銀貨、白銅銅貨、兌換券を使用して居るので、金貨が無くとも立派に事が足りる。日本國內の間には金貨本位は必要でない、比律賓、印度も同じ事である。

兎に角英國は金貨本位國で世界經濟の中心となつてゐた、海運業、保險業も皆英國を中心として居る、日本の海上保險率は英國で定つたものを參酌して居る。船の格附は英國

のロイドで定たものを用ゐて居る、經濟上の獨立とか何とか云つても英國で定た通りにやつて居る、昔は天下の大道は羅馬に集ると云つたが今日は天下の大道は倫敦に集る、世界中の資本は英國に集る、世界中の貸さうと云ふ資本資本を借り様とする人は皆英國に集つて來る、英國へ行きさへすれば如何に多額の金でも相當の條件さへ具備し居れば、即座に安全に借りることが出来る、日本から行つて佛國、白耳義獨逸の諸國から金を借るにも別々に借りるのでない、借先は白耳義人佛國人であつても金の貸借は倫敦で行はれる、之が一番便利で安全である、日清戦争なり、日露戦争なりの際にも倫敦へ往つて借りた若し倫敦で貸さなかつたら戦争は出来ない、又日本が支那から償金を取るにも上海で受取るとか、北京或は東京で受取つたら便利でありさうだが、之も遠い倫敦で受取つた、日本は支那から取つた償金は直ぐ英蘭銀行へ預けた、之は持て歸るよりも預て置く方が安全である、又日本の爲にも利益である、今日も或部分の正金は倫敦に置いてある、即ち在外正貨が夫である。日露戦争の場合に大變借金した其借金も全部使はない、一時預けて置いた、倫敦で借金して置いても他の借金に對しては振替へて拂つてある、此戦争中に日本は借

りた金を拂つて反對に貸すやうになつて佛國へ金を貸して居る。日本のやうな貧乏國が金を貸す如きは柄にないが英國が代つてやつて呉れたのである。此の如く英國が世界經濟の中心點たる力は何によるかと云ふと二つある。金の自由市場と金融機關の發達。細かく云へば引受事業の發達である。英國へ行けば如何に多額の金でも何時でも取引が出来るが、日本に於ては直ぐ價格の騰落がある。日本に於ては金一匁五圓であるべき筈であるが此頃は五圓七十錢から八十錢する。五圓の金貨を潰せば利があるので、地金商等は盛に鑄潰したから一昨年九月大藏省で之を禁じた。齒科醫のみは特別に安くして五圓十五錢で賣つて貰つて居る。此の如く狭い日本でさへ金の需要があるのだから英國の如きは澤山賣るのは當然である。併し英國に金が澤山あるかと云へばさうでない。戰爭の始め各國に於て手許在高を調べたところ、英國は佛國の殆ど半分しかなかつた。今でも金貨の回収に努めて居るが大變困つて居る。併し乍ら最後の決濟をすれば何時でも調ふのであるから安心して取引が出来る。米國では出来ない。之が金の自由市場として世界の金融の中心をなす一大原因である。第二は引受業務である。英國は此の如く世界の金融の中心

であつて世界の仕拂を受取る中心である。總ての商賣の勘定は英國が尻拭ひをする。之は爲替作用で以てやるのである。例へば日本の商人が亞弗利加へ何か品物を賣る。直ぐ金を呉れない。日本の商人は資金融通に困るから爲替手形で英國の手形引受屋 *Accepting House* から金を借る。之は銀行でない別な商賣で手形の引受けのみするのである。之れは所謂 *Gilt edge* 書物の縁の三方が金で塗つてある如く立派な第一流の手形ならば大きな銀行で以て割引して呉れる。斯く倫敦に於て世界中の手形の引受けをするのである。

此の如く戰爭前の世界の經濟と云ふものは英國が中心となつて居たところが、戰爭の爲に此二つとも打壞された。第一の金の自由市場の破壊は如何して行はれたかと云ふと、本年四月一日法律を以て金の輸出を禁止した。非常に窮屈になつて自由市場の性質がなくなつた。第二は引受事業の *Moratorium* をやつた。英國を始め世界中の各國も之をやつた。氣の利いた國は日本だけで、南米の智利、秘露まで之をやつた。このモラトリウムと云ふのは、仕拂を延期するのである。之が爲に非常に信用を害し恐慌を起した。何が爲に斯様な命令を下したかと云ふと引受屋を保護するのであつた。此の如く金の自由市場も潰し

金融上の一番根柢になつて居つた引受業務の運用を打壊した爲に二本の柱が揺ついで、倫敦は金融の中心であるかあるまいかと云ふやうになり、米國が取て代らうとして居るのである。兎に角現在まで金融の中心であつたものが目前の急の爲に殆ど一世紀間世界の金融海運保險業等の中心に瑕が附いたのである。之は英國人に取つては實に残念で折角戦争には勝つたが、一番誇りとして居つた世界經濟の中心點を無くして了ふと云ふことは返すくも残念な事である。吾々は英國が如何にならうが別に可哀相にも思はないが、世界經濟の仲間入りをして居る日本に取ては非常に迷惑である。今後世界の金融貿易上には一種變つた状態が來るであらうと思ふ。就ては差當り英國は何う云ふ事をするか英國はどうかして此中心と云ふことを恢復する工夫を考へて居るのである。英國の銀行家中一番偉いのは London City Midland Joint Bank の頭取ホルデンであるが、其人の云ふには英國に於て戦後第一にしなければならぬ事は金融市場を恢復することである。夫には内外二様ある内に對しては銀行の大合同である。之は元々獨逸の制度で、獨逸には幾つもある大きな銀行がある。表面各銀行何れも獨立してやつて居るが、内實は Affiliation で皆

五大銀行のどれかに系統を引いて居る。十年前には此制度を嗤つて居たホルデンも、獨逸流を眞似やうとして來た。今回の戦争が始まつてから英國に於て獨逸の眞似をした者が澤山ある。銀行の大合同は最も著しき例である。將來英國の銀行界は何しても斯しなればやりきれないのである。日本でも最近大藏省では事業の合同、銀行の合同をしなければならぬと獎勵して居る。斯して英國は世界中の資本の客引をしてゐる。戦争の爲に金の自由市場の中心も無くなり引受事業も止まつて了つたから、大に資本の争奪戦をしなければならぬと云ふので、世界的活動をしようとして居る。

米國に於ても之を行はんとして居る。米國の銀行制度は明治初年の日本の國立銀行制度其儘である。戦争開始後國立銀行制度ではいけないと其改善を説いて居る。其中一番手本となるのは日本の銀行である。最初彼方の制度を採つたが今日では日本の銀行の方が進歩して居る。内容は兎に角制度は米國よりも進んで居る。米國第一流の銀行學者たるスプレーグは、東京帝國大學の聘に應じて六年足らず東京大學で教授して居りながら此の制度を調査し、其スプレーグの唱ふる所が重きをなし、聯邦準備銀行の制度を樹て實行し

て居る、詰り銀行を合併しアフィリエーションで幾つも同じ大きな銀行が出来て何れも引受屋になつて居る、斯して國立中央銀行或は中央銀行代理店等が出来、次で資金の運用を考へ出して來た、先づ第一に眼を附けたのは支那である、中國民報に實業家の談として對支四國資本團の問題があつた。之が即ち銀行の大合同に依る資本爭奪戦を最も露骨に現して來たものである、支那に對しては最初日露英佛の四國資本團があつた、所が今度は新しく日英佛米の四國資本團を拵へやうと云ひ出した、米國は從來資本團へ入らなかつたのであるが、今度は進んで發起人となつて資本團を拵へやうと云ひ出した。是は日本に取つては非常に險呑なものであると云ふとは言ふまでもない、米國は資本を集めて國內で使ひ切れないから、何處か有利な使途を拵へなければならぬ、世界中見渡したところ支那が一番よい、其で日英佛をダシに使つて利權を占めやうと企て、居るものであるから、決して安心して入つて居る譯に行かない十分注意を要するのである。第二にホルデンの云ふには金を英國に集めなければならぬ、從來金の自由市場であつて世界の中心になつて居つたのが潰れたから之を復舊せねばならぬ、今世界中を見渡したところで、餘

計の金を有して居る國は二三しかない、第一は米國第二は西班牙第三は日本である、吾々は平和なる方法圓滿なる經濟上の運用により、此三國に在る金を英國に吸収することを努めなければならぬと云つて居る。兎に角今後英國は極力金の回收に努めるに相違ない、これが爲めに米、西、日に向つて品物を賣らうとする、一體商賣は何の爲に起つたかは措いて、今日は寧ろ資本の爲に商賣する、生産の爲に商賣するのでなく資本の爲に商賣が起るのである、資本の利廻りは何うしたら好いか、利廻りを好くするには品物を賣ることに努める、品物を拵へることは一番後である、會社を拵へ工場を拵へ品物が出来て後、之を賣ることに努めたものであるが、今日では先づ前に賣る先を拵へる、御客様を見附けて品物を拵へるのである。

從來日本の商賣は英國を目標にしてやつて居る、今でも猶且その通りであるが、英國が金の輸出を禁止したので日本は甚だ困る、戦争中日本品の需要が盛になつて來た、或物は衰へて居るから、今までの行方で行けるものと思ふと大違ひ、日本へも最近直ぐ回收出來ない、米國に對して資本の供給を依頼しても競争者たる日本に對しては容易に資本を供

給しない、日本に資本を供給するのは、敵に刃を貸すやうなものである。米國の利權を妨げる様なものに資本を供給する道理がない。米國自身で行らうとして居る、そうなつて來ると戦後の世界は行詰つて貿易は非常に衰へるかと思ふとそんなことはない、何故ならば歐羅巴の富は非常に減つた、品物を買ふ力も減つたのは言ふ迄もないが漸次恢復するに違ひない、戦争中何百萬の人が生産事業を缺いた、特に戦争中女の労働者が増加した、戦争中の生産品は戦争の爲に使用したが、戦後は此の生産品の餘剩を他へ賣附けなければならぬ。外國貿易は元來輸出の爲にするか輸入の爲にするかと云へば、輸出の爲にするのでなく輸入の爲にするのである。日本に於ては輸出が殖えると大變結構、輸入が殖えると大變悲しんで居るが、之は經濟上から云へば誤りである。成るべく輸入の多い方がよい、輸入が多くなつて輸出が少ければ其差額を金貨で拂へばよいのである、損が行かないと云ふだけの話である。金貨が無くならぬ程度に於て輸入超過の方がよい、金貨を喰ひ止める爲に金貨を出さない、或は金貨を入れなくして濟めば輸入超過は恐れる必要はない、其證據には世界で一番進んで居る國は常に輸入超過で、即ち英國獨逸はそれである、米

國は大變借金があつたが今日は殆ど皆返して了ふた。借金國である間は矢張輸出超過である、日本の如きは外債の利息を拂ふ爲に如何に輸出が超過しても悦ぶ可きでない、當り前である。日本に於ては印度の棉花を買はねばならぬ、印度は日本の品物を餘り買はない、品物を出しても代金を拂はない、英國は印度のカウンシルを制限し爲替の調節をさせて居る、英國は自國に於て金貨禁出の爲に印度の證券發行高を制限して居る、印度事務省 (India Office) に於て之を發行し代金を拂ふことになるのであるが、此のカウンシルは一週間に一日なり五日なり日を限つて居るのであるから容易に賣れない、日本に於いて今日印度の棉花を買入れたくても買へない、印度に於ては實の持腐れでなく目下は棉の持腐れになつて居る。前述の如く英國は當分の間は超過國でなければやり切れないから、世界中で其得意先を見付け様として居る、米國は他より買ふ所でなく他へ買はさうとして居るのである、日本の貿易の趨勢は英國で買つて米國へ賣つて居つた、是は英國の物を買ふ方が都合が宜かつたからであるが、賣先は米國であるから大變賣り難くなつた、米國と日本との關係は今後種々の障碍が横はつて居るから、身を殺ぐやうな輸入

超過は大に注意を要する。此の如く英國は日本の金貨を取らうと云ふ方針に據つて來て居るから、日本への輸入は政策上樂で日本よりの輸出は逐日困難になつて來るから、吾々は餘程其邊を考へて今後大に覺悟をしなければならぬのである。

|| 岡山縣立岡山商業學校講演大正八年六月廿八日「中國民報」掲載 ||

十二 如何に勞働者を指導すべきか

「如何に勞働者を指導すべきか」と云ふ問に對して一言を以て答ふるならば、「勞働者自ら指導すべき者である、他の階級から強ひて指導すると云ふことは、無用にして且つ或は有害となる恐がある」と答ふる外はない。尤も指導すると云ふことの意味の取りやうに因ては、右の通に答ふることは誤解を生ずるかも知れない。が普通の意味の指導と云ふことならば、他の階級が勞働者を指導すると云ふことは、道理上間違つて居り實際上

に於て往々有害の結果を惹起することと思ふ。

我輩の常に不平に思ふことは、一體我邦に於ては人を教へ人を導かんとする階級と、人へのみ教へられ指導せられてゐる階級と二つしかないことである。名士識者は教訓と云ふことを己の當然の職務の如く心得て、事々物々に就て人を教訓指導せんと欲し、又爾かすべき權能あるものと確信してゐるやうである。他方に國民の多數は自らを教へ自ら指導する所薄弱にして、只管名士識者の教訓指導にのみ憑依しつゝあるやうである。國民の指導者たるべきものたらざるべからずと確信せる一部分の階級と、事々物々他の階級に指導せらるゝを待つのみ、階級とがあることは、我邦の健全なる發達の上から非常に憂ふべきことであるのである。今日の世界、理想としては指導若くは教訓と云ふことを出来る丈、僅少にすることにありと確信してゐる。人を指導することを慫くし、人に指導せらるゝことも成丈、慫くすることが、國民の凡ての階級を通じての根本的の要事である。尤も時と場合によつては、教訓指導は缺くべからざることであつて、之を全廢せよと云ふのではない。唯是を出来るだけ必要の無い様にしたのである。就中

年長者が年少者経験ある者が経験乏しき者に對して指導することは必要なるが如きも、これとても指導教訓でなく、成る可く相談合議と云ふことにして行くべきである。社會上の進歩を妨害する大なる原因は、教訓指導に餘りに重きが置かれ過ぎてあることは是れである。

此の事は労働運動に就て痛切に感ぜられる。今日労働者階級は未だ指導教訓を求むる程度に迄も行つてゐない。又社會の輿論も労働者を教訓指導する必要を深く認めてゐない。労働者は殆ど無意義な生活を送るに止つてゐる。社會も此に對して深き理解を持つて居らぬ。故に此状態に就て言へば、問題として提出された『如何にして労働者を指導すべきか』と云ふことは、大なる意味を持つて居るに相違ない。然し我邦の労働階級とても、近來其の思想上に於ても長足の進歩をなしつゝあることは疑ひない。故に強めて歐米に倣つてレーボアリーダーが輩出して、是を教化して行くと云ふ中間の状態を態々作出する必要はないと思ふ。直ちに労働者自らの自治自助を促進することに勉めねばならぬ。即ち我邦現在に於ては労働者をして自治の民たらしめ、自助の人たらし

むべく指導すると云ふ一事あるのみと思ふ。英國に於て常に云ふ *help them to help themselves* 『自らを助くべき様に助く』と云ふことを以つてし、自治の力が備つてゐないから力を得せしめる様に助く可し、其以上に涉つて教訓し指導する必要はない。

日本の様に指導者階級と被指導者階級との二階級が對立してゐる國に於て、労働者を指導することゝ云ふを、廣い意味に於て行ふときは、何時迄経ても労働の問題を眞面目に解決することを期し得まい。労働者をして指導を必要ならざらしめる様に仕向けなければならぬ。而して日本の労働者は労働指導者がなければ、自己の問題を解決し自己の地位の向上發展が出来ないかと云ふに、決してさうではないと思ふ。社會改良により社會政策を實行することによつて、労働運動の餘地をだに與ふれば、日本現在の労働者も一歩づつ自己の問題を解決して行けることゝ確信する。歐米に於ける『レーボアリーダーシップ』と云ふことには勿論美點長所もあるが、他面には非常なる弊害の伴つてをるものである。歐米の労働階級の歴史を一瞥すれば、誰しも首肯する所である。労働者自らの中から『リーダー』となつた者にも弊害はあるが、其は暫く論外に置くとして、労働者

階級以外から入來つて労働者階級を指導するリーダーなるものは、如何に高潔な精神を以て着手しても、其の間に弊害の起ることを免れない實例は數多くある。況んや労働指導者が精神必ずしも高潔ならず、何か爲めにする所あつて労働者の指導となるに至つては弊害の云ふべからざるものがある。労働者階級以外から入來つて指導者となるものゝ大多數は、所謂知識階級の人々である。若くは宗教家博愛慈善主義の人々であるが、此等の知識階級の人々は、其階級に屬する所の一種の信仰や理想や、又は先天的偏見あるを免れ難い。博愛慈善主義は博愛慈善の病に罹つてをり、宗教家は動もすれば宗教的執妄を免れない。知識階級と稱せらるゝ者にも知識階級特有の氣分あるは免れない。此等の偏見や執妄は、彼等をして熱心なる運動者たらしめることには有力なる原因であるが、其の結果は労働者を強て自己の好む所に引付けると云ふ傾向のあるを免れない。殊に労働問題に就て特別なる主義を有つ人々は、其主義から言へば立派な者であり、其主義に對する熱心は敬服すべきであるが、労働者其人の立場から言へば、主義熱心のために迷惑を蒙ること決して尠しとせない。近頃米田庄太郎氏は、日本の労働者は容易に自己の

地位を自覺するに至るまいから、西洋に於けるよりも更らに強い度合に於て、所謂知識階級が先づ運動の正面に立つて、労働階級を指導すべきであると主張して居らるゝが、我輩は其の説に服することは出来ないのである。知識階級と云ふ文字は我輩の甚だ好まざる所であるが、假りに其れは文士論客操觚者又は宗教家教育家學者等を指さすものとするれば、これは労働指導者として甚だ不適当な人々であると思ふ。如何に労働の問題に熱心を持つて居ても、身自ら労働者ならぬものに、如何して正當の理解が期待せられ得やう。多くの場合には却つて邪魔となる恐れがある。具體的の例を以てすれば、労働組合に於ける各種の紛争や軋轢の多くは、主義及び主義に對する熱心から惹起された無用なる争であつて、労働者の地位の向上發達に無關係のものであり、且つ有害なものである。其の爲に反つて労働者階級全體の害物を除去することが出来ないのみならず、明に労働者階級の正面の敵たるものと握手する様になつた例も珍しくないのである。

殊に基督教的組合カトリック主義労働組合に對する Hirsch Duncker 式組合、又は赤色組合と普通組合の絶ざる軋轢は顯著なる例である。然らば是等の知識階級、宗教家博愛慈

善主義者の指導がなかつたならば何うかと言へば、勿論労働問題は今日の様な形を取らなかつたであらう。又方法の不充分なるために幾多の過に陥つたであらう。指導者あつたがために陥るべき過に陥らなかつたことが多大であらう。併し指導者が無かつたならば、労働組合は見込みがないかと云ふに、我々はさう思はない。唯取る形は違ふであらうが、自然の發達上労働者の團體が自動的に是れをなすに至る外はない。英國のやうに進歩の前面に立つてをる國に於ては、労働者階級以外から入來つた指導者なくしては據るべき経験もなく、其運動に多大の困難を覺えたるは云ふまでもないが、我邦の如く據るべき先例を歐米から與へられてゐる國に於ては、英國の場合と甚だ事情を異にするに云ふべきである。善い経験も悪い経験もあるが、労働者は宜しく是を取捨選擇し、又外國の例を取捨して國情に鑑み、日本労働者の特別なる事情に適應すべき考案を立て、行くべきである。而して知識階級と聯絡を保つて、其の意見を聽き、其の知識を利用することは忘るべきでない。然し相談者若くは顧問と云ふ地位以上に進み出で、知識階級なり宗教家が自身で労働者指導者になることは、餘程慎重に考慮した上でなければならぬ。

殊に労働紛争の際に於て知識階級の人が労働者引率の衝に當ると云ふことは、慎重に熟考した上でなければならぬ。

斯く言ふと極めて保守的なことを主張する様に考へられるかもしれないが、左様ではない、却つて反對に労働者をして始から自ら労働運動に當らしめんとするに外ならない。指導者無くして労働者が方向を過ると云ふのは、餘に低く労働者を觀た考である。我輩の極めて僅少な見聞に於てさへ、現在労働者の或者は指導者が無くとも、合理的労働組合を組織するの日遠きにあらざるを思ふのである。此に或主義を以て着色し、或特別な學說理想を與へることは、毫も必要のないことである。但し労働者が自ら進んで或主義を奉じ、或理想の洗禮を受くることは、無論防ぐ可きではない。殊に日本に於て労働者の指導者となるべき人々として、社會主義者のことを考て見ると、今日迄の社會主義者なるものは、其の主張に於ては第四階級に屬するも、其教育に於て其趣味に於て其氣分に於て、實は第三階級に屬する人が大多數を占めて居るのである。具體的に言へば、堺利彦氏の如き我邦社會主義者の先覺者として尊敬すべき人であるが、我輩の見るところでは、同君は其

の主義を除いた以外の一切に於ては、決して第四階級の人でなく第三階級の人であることは、我々と少しも異なつて居らぬ。同君は唯主義の上に於て第四階級に屬するに外ならぬ。又た今日友愛會の鈴木氏を始め若干の我輩の知つてゐる人々も、決して第四階級の人ではなく第三階級の人である。労働運動は第四階級の運動であるから、第四階級の手によつて第四階級の問題が解決せらるゝのが正當の道程である。試みに或る労働紛争が起つたとして、堺君なり鈴木君が如何に指導するかと言へば、或る種の問題は労働者の立場と全然一致すべき意見を有するであらうが、結局の問題になると、労働者の最も痛切に感ずる問題は充分なる理解を得られないことと思ふ。第三階級に屬する人々でも直接工場の經營に當つてをる人の方が反つて善い、適切な解決の考案を立て得るに相違ない。斯く我輩が云ふに就て最も顯著なる例を挙げやう。マルクス自身は労働者の大指導者であつたが、實際起つた労働紛争の場合に於て彼が判断を過つた例は少くない。此は人のよく知つてをることである。ペーベルの如き輻輳挽工から起つた人でさへも、社會主義宣傳に従事して久しく絶つてから後は、實際の労働問題に對して充分なる理解

を持つてをらなかつた例があるではないか。殊に面白いのは、先年獨逸社會主義者の中央機關新聞なるフォルヴェルツ新聞社に於て、リノタイプ植字工と新聞社の幹部との間に激越な労働紛争が起つた時に、幹部の社會主義者は全然理解を缺いてをつた爲に大騒動を惹起した例がある。又ライプチーギーフォルクスツァイトングに於ても同じ様な事件が起つた。此は顯著なる例であつたが、小さい争は絶えず社會主義者經營の事業に起つてゐるのである。これは社會主義者が無能不徳なるがためでなく、其地位の相違がかく理解の缺乏を齎したのである。

我輩の見る所では、今日は友愛會が労働者の指導機關として可成有力なる様ではあるが、此は未だ問題が切實にならないからである。ヴァイタル・クエスチョンとして労働問題が起つて來るとすれば、今日の儘の友愛會では殆ど手の付けやうがなく、強ひて手を着けやうとすると、有害なる結果なきにしも限らぬと思ふ。さればとて友愛會を無用なりとするのではない。友愛會を過渡期の一機關としては尊重するが、我々は之れに労働指導の使命を期待せぬ者である。又信愛協會或は此に類似の機關が労働者指導の任に當

らんとすることは、初めから出發點を誤て居るのではないかと思ふ。主として雇主のみからなつた團體が指導者となると云ふ考は根柢に於て間違つてゐる。強ひて指導せんとすれば、或は労働者間に恐ろしき反感を喚起することゝなるかもしれない。此は當面の問題として深く關係者諸氏に熟慮を願ひたい點である。

我々の考へる所では労働者に指導者などの必要の無くなることが緊要である。尤も多數の人を集めるのであるから誰かゞ表面に立つてやることは免れない。然し表面に立つのみであつて指導者となるのではない。如何に小なることも労働者に關すること是一同の合議の結果として爲す可きである。暴行強迫は言ふまでもなく不可なるは明であるが精神的の威力を持つ人が、劈頭に立つことは歐米では止むを得なかつた。然し向後各國に於ては次第に廢止せらるゝであらうと思ふ。日本は後ればせに仲間に入つたのであるが、時代後れの方針を取ることは全く斷念すべきである。然らば労働者自ら覺醒するまで傍觀せよと云ふかと問はるゝかもしれないが、我輩の考はさうではない。唯だ問題の無き所に強ひて問題を作り、運動の無い所に運動を起すことは斷じて不可な

りと思ふのである。強ひて作つた問題や作爲に基いた運動は、決して堅固なる運動とはならない。大聲解決を叫んでも必ず解決せなければならぬ問題でない以上は、兎に角若干の犠牲を要することであるから、途中で挫折することになる恐がある。其結果得る所は僱主に對して、又社會に對して不平心を深くすることだけであつて、労働者の生活は些も向上進歩しないであらう。

然しながら強ひて問題を作爲し強ひて問題を起すのでなく、労働者の眼を開き耳を啓き彼等の進歩の方向は那邊にあるかを説明することは決して無用ではない。換言すれば労働者の知識開發と云ふ Aufklärung は非常に必要である。此をなすには一方に偏した知識を吸入せしむべきでなく、あらゆる知識を労働者の前に提供して、労働者自ら之を選択するに一任すべきである。而して教訓と云ふ意味でなくして、何處までも開發の意味でやらねばならない。然し今日の労働者の状態は其の眼前に提供せられたる知識を取捨選擇して吸入すること殆んど不可能の状態である。多數の者は義務教育を受けてゐても、其れ以上の修養は、現在の如く労働時間は長く生活の餘裕がないから迎も出來な

いのである。此は或意味に於て大なる危険を抱藏してゐる。彼等に取捨選擇の力が無い爲に非常に偏した知識でも、彼等は是を聽けば直に取入て、他に是に勝れるよりよきものがあることを全然知らないで過すこともある。是は労働者に取つて大に危険なことである。雷さへ不安なる労働者は彌が上にも不安を増す結果を起すことは、労働者の不幸を大ならしむるに外ならない。此の點のみから見ても、労働時間を短縮し其生活に餘裕を與へることは甚だ必要である。

此を要するに、今日の問題は『如何に労働者を指導すべきか』と云ふよりも、彼等に餘力を與へ、自からの問題に就て充分の理解をもち、自からの力を以つて正しく解せられたる問題の解決を自己の力を以つて遂行せしむべき機運を促進することは是れであると信ずる。(六月八日談)

|| 大正八年七月『解放』掲載 ||

十三 唯一條の光明

|| 國際労働保護法制を歓迎す ||

一

昨今の新聞紙に連載せられたる所の聯合國の講和條約草案なるものは、無慮十數萬言、實に周到綿密なるものである。恐らく今日現在の人間が有し居る限りの智慧を絞つた、云はゞ人智の最能限を盡したものと云つて宜からう。單に此の點から言つても古今未曾有と評さなければならぬ。併しながら講和條約の草案が古今未曾有たることは、綿密周到と云ふに止まらない。否、實に驚くべきは、其の中に包含せられたる精神それである。即ち獨逸を徹底的に壓迫すると云ふことに於て、是れ以上考へ能はざるほど慘酷な

ることと是れである。

歴史上に於て數箇國が寄つて集つて一國をイヂメた例は随分あるが、今度の講和草案の如く露骨にして而して徹底的なのは未だ曾て是れあるを見ない。假りに我輩が獨逸人であつたとするならば、斯の如き徹底的の亡國講和を結ぶよりは寧ろ國を擧げて英國なり米國なりに併呑された方が遙かにマシと感ずるであらう。何となれば、此の規約は國としての獨逸を徹底的に屈辱せしむるを以て満足せずして、獨逸六千萬の國民全體を國際的奴隸となす所以であるからである。

我輩は人種差別撤廢が認められないなら、日本は國際聯盟を脱退すべしとの論には賛成し兼ねるものである。此人種差別撤廢と云ふことは、米國又は濠洲に於ける移民問題と何等關係がないと云ふけれども、事實に於ては無論關係がある。米國や濠洲の立場から云へば、今日の日本人其他の勞働状態に於て、無差別的に日本を始め亞細亞民族の移入を承諾し能はざることは、寧ろ當然の事である。是れは何處までも妥協的に日本の立場を維持する外はないので、是れが爲めに聯盟脱退などと云ふことを考ふべきでない。青島

問題は我邦の要求通り解決したから好いが、是れこそは聯盟脱退を賭しても争はなければならぬ問題であると信するが、我輩は一個の人間として、殊に古來外國に對して一回も侵略壓迫を試みたことのない日本の國の國民としては、今度發表されたやうな慘酷極まる講和條件に加入することを寧ろ拒止したいと思ふ。されば此の意味に於て國際聯盟を脱退したいと思ふ位である。併し我輩は決して聯盟脱退を主張しない。何故かなれば獨逸に對してあのやうに徹底的に慘酷な態度を執る所の英米は、若し日本が聯盟に加入しないとなれば獨逸に對すると同じ筆法を以て日本に臨んで來るであらうと恐れるからである。是は誠に意氣地のない話であるけれども、何うも致方がない。併し我輩の良心として忌憚なき發言をなさしむるならば、日本としては其の立場からして何もあのやうな苛酷な條件を課してまでも、獨逸を抑へ付ける必要は、寸毫も有して居ないと固く信する者である。否な日本としての立場を離れても、單に世界の一市民として冷靜に是れを考へたならば、誰人と雖もその條件の慘酷に失することを認めざるものはないと思ふ。

二

詳しい事は本論の目的でないから論評の限りでないが、此處に是非言つて置きたいのは、經濟上の制限を極端に獨逸に課することは是れである。獨逸が再び挑戰的態度に出づることを防ぐ爲めに、種々の條件を附することの必要は、我輩も固より是れを認める。が、併しながらあの條件には、少しも此の點から必要でない條項がイクラモ含まれて居る。是れは事實軍事上に於ての獨逸の再興を防止すると云ふばかりでなく、經濟上産業上に於ても獨逸をして再び起つ能はざらしめんとするからに相違ない。而して最近の電報に依れば、獨逸にして若し此の條件に對し承諾を拒否するならば、獨逸を經濟的孤立の地位に追ひ込むべしと聲言しつゝあると言ふ。國際法の精神から云つても、正義人道の上から云つても、戦争の事は戦争で定めるべきである。講和條約の締結が不成立に終つたからと云つて、敵を經濟的孤立の地位に置き、其の國民を飢餓に陥らしむると云ふことは、言はうやうなき不都合なる、不人道的なる、不正義的なることである。戦争の爲めに其

の良心を麻痺せられた歐米人は、此の事に氣が付かないかも知れないが、然らざる我々日本人から見れば、獨逸の横暴、獨逸の軍國主義よりも、今度の講和條件に現はれた英米の横暴、壓迫の方が遙かに絶大遙かに恐るべきものである。我輩は此の規約を一讀して直ちに叫んだ、『暗雲世界を鎖す』と。斯く言へば又英米記者は我輩に對して又々獨探呼はりをするであらう。併し我輩は決して獨逸を最厲する者でも何でも無い。新聞紙雜誌によつて惑はされない純粹なる日本人十人を拉し來たつて、其の感ずる所を忌憚なく言はしむれば、少くとも其の半數は我輩と同説であらうと信するのである。併し此の事は本論に於て言はんと欲する所でない。唯だ斯の如く暗雲によりて鎖されたる戦後の世界に、一條の光明の認むべきものあるを示して、一は以て世界文明の爲めに聊か心を慰め、一は以て日本の國論の誤まりを正して置きたいと思ふのである。

三

夫れは外の事でない。國際聯盟によりて勞働保護法規が決定せられ、而して我邦も無

論參與するやうになつたことは是れである。抑も國際的に労働保護の立法を統一したいと云ふ考へは、餘程久しい以前よりあつた事であるが、今度の國際労働法規の立法せられた端緒を造つたものは、本部を瑞西に置いて居る處の國際労働保護同盟の運動是れである。其の創立は去る明治三十八年五月八日より同十六日まで瑞西の首府ベルンに於て開かれた國際労働保護會議に胚胎して居るのであつて、此の會議に於て一の決議をなして、是れを各國政府に勧誘すると同時に、永續的の團體として國際労働保護同盟なるものが出來たのである。獨逸に於いては一八七二年七月十三日に社會改良會議なるものが催されて、夫れが翌一八七三年十月十三日に社會政策學會と云ふものとなつた。是れが我邦で吾々が採つて手本として居る所の社會政策學會である。然るに彼の有名なビスマルクの社會黨鎮壓法が施行せられてからは、此の學會は眞に一の學會となつて了つて、當初の目的であつた實際運動を全然止めて了つたのである。ソコデ是等の人々は學會は無論必要であるけれども、同時に實際上に於いて労働保護の爲めに有力なる團體の成立を必要とし、是れが爲めに盡しつゝあつたが、右の國際労働保護同盟が組織せられたのを

機會として、其の同盟の獨逸部會を名づけて社會改良協會となし、主として實際運動に従事する機關としたのである。各國も亦た獨逸の如く其の支部を設けたのであるが、獨逸の社會改良協會が各國支部の中に於いて最も整頓したものであつた。

四

却説明治三十八年の會議に代表者を出した國は、奧太利、匈牙利、白耳義、丁抹、獨逸、西班牙、佛蘭西、英吉利、伊太利、ルキセンブルク、諾威、瑞西、和蘭、葡萄牙、瑞典の諸國であつて、米國は加はつて居らなかつた。我が日本にも此時初めて勧誘が慥かに來たのである。支那に對しては會議の方からテンデ加入の勧誘をしなかつた。即ち支那をば全然問題として居らなかつたのである。日本の方は主催者に於て多分加入するであらう、少なくとも代表者を派遣するであらうと言つて招待したのであつたが、慥かオツキアヒ的に譯の解らぬ人間を委員に任命したか或は全く委員を出さなかつたか、兎に角日本は極めて無頓着であつたと云ふことを主催者の一人から我輩は聽いて居る。サテ此の會議に於ては、二つの

事が決議された。即ち第一、マッチ製造業に白(黄)燐の使用を禁ずること。第二、婦人の夜業を禁ずること。是れである。今其の個條を擧ぐれば次の如し。

一、一九一一年一月一日以降、白燐を含有するマッチの製造移入、販賣を禁ずること。此の協約の批准に必要な草案は、遅くとも一九〇七年十二月三十一日まで調製すべし。

日本國政府は右期限までに此の協約加入を宣言すべく招待せらる。此の協約は本會議に代表者を派遣したる諸國並に日本國が是れに加入するを以て有効となる。是れが第一項の決議で、殊に日本國を招待することゝ又た協約の有効となるには、日本の加入を條件とすることを明言してあるので、如何に日本が重要視せられて居るか、明かである。是れは日本のマッチが外國に輸出せらるゝからでもあるし、又他面に於ては日本も最早此の位な労働保護は喜んでするであらうとの期待があつたからである。次に第二項に於ては左の如く決議した。

二、婦人の夜業は是れを禁止す。其の施行細則は左の如く定む。

第一條、婦人の工業上の夜業は、年齢の別なく總て是れを禁止す。但し次の除外例を認む。

本條は男女労働者合せて十名以上使役する工場に適用す、家族のみの従事する工場には適用せず。

本條を適用せる工場の意義は、協約加入國に於て各々是れを定むるものとす。但し鑛山、石山並に物品の製造改造に關する工業は必ず是れを含むものとす。工業と農業との區別は各國其の法律を以て是れを定むるに委す。

第二條、第一條の意味に於ける夜間作業の休止は、少なくとも十一時間繼續すべきものとす。而して午後十時より午前五時に至る時間は、必ず其の中に含むべきものとす。但し成年婦人の労働に關し、未だ何等の規定なき國にありては、(即ち當時の日本の如きを意味して居る) 向後三年間に限り、夜間作業休止時間を十時間に短縮することを得。左の場合に於ては夜間休業を停止することを得。

一、不可抗力により豫期し能はず、又は不時に起る作業停止の場合。

二、容易に變質すべき原料を扱ふ業にして、夜業を禁止する時は損失を蒙る場合。是れが第二項の決議であつて、而して此の協約は前に述べた通り一九〇七年、即ち我が明治四十年十二月三十一日まで批准を了り、正文を瑞西國政府に交付すべきものと定め、又た何國にても將來何時にても此の協約に加入し、其の實施期限を隨意に定むることを得べしとし、一度加入しても一年前に豫告する時は、何時にても此の加盟を脱することを得るものとして、少しく強制壓迫の意味のないことを明かにして居る。而して此の決議の全部に賛同した國は、奧太利、匈牙利、獨逸、丁抹、佛蘭西、伊太利、ルキセンブルク、和蘭、瑞西等であつて、白耳義は字句の修正を要求し、英吉利は婦人の夜業禁止には條件付にて賛同し、白燐の禁止に就ては賛否を保留し、諾威は趣意は賛成なるも、實行の保障は出來ないと言ひ、葡萄牙は婦人の夜業禁止には賛成するけれども、白燐に就て留保し、瑞典は婦人夜業禁止には賛成なるも、一九〇七年十二月三十一日と云ふ期限は餘りに近過ぎるから、今少し先きに延ばして貰ひたいと言ひ、白燐に就ては其の害を防ぐべき方法があるから、趣意には賛成するけれども、加盟の必要を認めないと言つた。是れは瑞典は歐羅巴第一のマツ

チ製造國であるから、無論我田引水的の言明と認めなければならぬ。斯の如く白燐の使用禁止に就ては賛否が區々であるけれども、婦人の夜業禁止に就ては、皆な一致して是れを是認したのである。日本は是れに對して如何なる態度を採つたかと云ふと、當時の新聞には何も發表されたものなく、議會に於ても一回も問題とならなかつた。當時の代議士はそんな勸誘を受けたと云ふ事さへも、お芋の煮えたと同様に御存じなかつたであらう。我輩は注意して新聞紙を見て居つたが、唯一つ明治三十九年の夏頃の諸新聞に左の如き記事のあるのを發見した。

今度瑞西ベルンに於て開催せられたる國際勞働保護會議に於て議決したる事柄に對して、我政府は未だ賛同すべき時機に達せざるものと認め、其の旨通牒したりといふ。後にも前にも是れ切りであつた。此頃既に勞働問題又は社會政策と云ふことは、識者學者の間に論ぜられて居つたにも不拘、此の問題に對して一人も公に論じた者あるを聴かなかつた。然るに外國の新聞には此の決議に對する日本の態度に就ては、少なからざる注意を拂つて居るものがあつて、是れこそ日本が眞の文明國となつたかならぬかの試験

問題であると書いて居る者もあつた。ソコデ我輩は當時河津河上兩博士の主宰にかゝる日本經濟雜誌に『小にして大なる問題國際勞働保護に賛同せざる日本』本全集第五集第一九一—三頁と云ふ題で一文を公にして識者の注意を促がさんとした。が其文は誰にも顧みられずして今日に及んで居る。而して今日國際聯盟に於て此決議よりも更に進んだ條項が規定されたからとて俄かに騒ぎ立てゝ居る人が少なからずある。或人は是を以て日本工業の滅亡の端であると憤慨するかと思へば又或人は己れ達は疾くより論じて居た夫れ見た事かと言はぬばかりに論じて居る。名を指して言ふのは恐れ入るが試みに擧げて見れば前者の代表者は服部文四郎君で後者の代表者は安部磯雄君である。共に早大教授である。併し明治三十九年には服部君も安部君も一言もして居らなかつた。我輩は右論文の題とした通り其當時に於ては問題は小なるが如きも他日は大問題となると確信して居つたが果してさうなつた何も先見の明を誇るでも何でも無い。事實がさうであつたに外ならないのである。何となれば國際勞働保護同盟は右の如く非強制的な方法であつたが其後十年始終苦心を重ねても思はしい成績が擧げられない。此に於て戦争前

に於て既に識者は次の如く考へて居た。此の同盟の趣意を實現するには何うしても強制的でなければいけない。是れはハーグの仲裁裁判所と結び付けるか或は是れと同様の機關を設くるかしなければいかぬ。殊に白燐の使用禁止の如きは右同盟加入國が勞働保護の上より必要であるとして勵行しても瑞典なり日本なり英吉利なり亞米利加なりがドシ／＼白燐を原料としたマッチを製造して世界市場に賣出せば白燐禁止國は到底競争に堪へない。何となれば白燐より安い燐はないのである。自國への輸入は禁止することは出来ても自國製品を輸出することが出来ないことになる。是れは列國が加入するのでなければ何にもならないのである。斯の如きは一の著しい例であるが其他婦人の夜業禁止は勿論勞働保護の爲めにする施設は一時は生業費を高める作用を免れない。如何に労働者の健康及び道德を保護したくても列國が世界市場に於て競争しつゝある現在の状態に於ては此の點より却つて遣りたいことも遣れないことになる。徒らに人の手を拘束しやうと云ふのではない。人道の上から正義の上から是非遣らなければならぬことも悲しいかな世界貿易市場の競争と云ふことの爲めに是れを行ふことが

出来ないものである。軍備の制限とか戦時法規の統一とか平常無くして稀れに有るとに於てさへも、國際的協調が段々行はれんとしつゝあるでないか。況んや各國々民の大部分を占めて居る所の労働者保護而も其目々の生活の向上改善を齎らすべきことを實行するに就て、國際的協調を行ふが爲めに、多少の強制を加味すると云ふことは毫も無理ならぬ要求である。併しながら今度の戦争までは、是れは一の理想たるに止まつて、遂に實現せらるゝに至らなかつたのである。然るに今度の國際聯盟に於て、眞先きに此の強制的な國際労働保護の規約を定めたと云ふことは、暗雲に鎖されたる世界の一角に強力なる一條の光明を放つものと謂はなければならぬ。我輩は同盟の成立した抑もの初めから、其の主催者の一人でも最も熱心に最も有力に働かれたるブレンタノ先生並に奧太利、匈牙利、佛蘭西、獨逸等の有志者から、絶えず此の同盟の經過に就て報導を受けて居つて、彼等の惡戰苦闘に對して深甚なる同情を禁じ能はなかつた一人として、今度の國際労働規約の成立を衷心の歡喜を以て歡迎するものである。慥か阪谷男爵も此の經過に就ては詳しく知悉して居られて、其の幹部の人々とは絶えず意見を交換せられつゝあつた

ことゝ記憶して居る。従つて男爵に於ても今度の規約は非常な満足を以て迎へらるゝことゝ信するのである。

五

人或は難じて云ふであらう。労働保護の如きは國內の事項である、是れを國際聯盟で規定するのは、内政干渉の端を開くものである、極端に言へば、主權の侵害とも見るべきである。是れは言ふまでもなく愚論である。苟も國際聯盟を造る以上は、多少の拘束は初めから覺悟すべきである。唯だ其拘束が某々國の利益を本位として、他の聯盟國に不當の干渉をするのであるならば、斷乎として排斥しなければならぬ。労働保護の如き文明國に於て實現しなければならぬことで、拘束を受くるのは、所謂名譽の拘束であつて、内政干渉の端を開くものなどと言ふことは出来ない。現に列國間の通商には幾多の拘束がある。夫れよりも遙かに正義人道に合した労働保護の爲めに、同程度の拘束を蒙むるは少しも疾しとするに足らぬことである。又言ふものがあらう。此の國際労働法規は

戦争に際し、歐米諸國に於て労働者の勢力が増大し、政府は其の歡心を得る必要があつた爲めに、自國の労働者に様々の言質を與へた。然るに其の言質を實行するに當つて、他に同意しない國があると困るから、日本までも仲間に引入れたので、英米一流の敵本主義に外ならぬと。此説には若干の道理がある。併し是れは敵本主義であつても極めて結構な敵本主義である。縱令動機は敵本主義であるとしても、事實は日本の立場から云ふも道理に基づいた事である。現に日本のやうに政府も政黨も労働保護に就ては何等の考へもない國に於ては、國際聯盟に強制せられてヤツト目が覺めるのである。所謂『牛に牽かれて善光寺詣り』で、誠に結構なことである。若し國際労働規約がないなれば、日本は此處まで進むには向後何十年か、つたか解つたものでない。英米攻撃を以て一の能事として居るか、とさへ疑はるゝ我輩も、此一點に就いては、ウキルソンやロイドヂョーヂに對して、心からなる感謝の涙を捧げるを辭しないものである。是れが戦争中に於ける歐米諸國に於る労働運動の爲めとすれば、我輩は彼等歐米の労働者に對して、深く感謝の意を表明しなければならぬ。然るに我邦の識者と言はれ學者と言はるゝ人の中にも、ウキ

ルソンの似而非正義人道に溢りに涙を流し、ロイドヂョーヂの演説を一字一句暗記して喜んで居る連中でありながら、國際労働規約だけは實に困つたものであると公言する人が、餘程あるやうであるが、以ての外の事である。今其の代表者として前に名指した服部君を挙げやう。同君は最近實業の何とやら云ふ雑誌に、國際労働法規は日本の工業を危くするものであると云ふ一大愚論を開陳して居られる。我輩は同君の論文を再三熟讀したが、讀めば讀むほど同君の意思が那邊にあるかを知るに苦しむのである。是れを一々論駁してもよいが、餘りに馬鹿らしい、且つは、予に於て同學者を責めるのは不本意であるが、同君が應戦せらるゝならば、太陽誌上に於て何回でも論戦するを辭せない。併し、同君が思ひ切つて愚論を發表する勇氣のある點に就ては敬服する。世の中には夫れほどの勇氣がなくして、曖昧の間に影辨慶的反對論を唱へ居る人が少なくない。是等は論駁しないでも、日本が國際聯盟に加入すれば泣いても笑つても追ひ付かない。日本委員が問題の眞意義を了解して承諾したでないとしても、兎に角承諾したと云ふことは怪我の功名である。牧野男が討議の際に日本の労働状態を述べて、修正か反對か何れかの説を

述ぶる豫定であつたのを斷念せられたと云ふ事は、『雄辯は銀の如し沈黙は金の如し』との端的なる好適例である。牧野男をして沈黙を守らしむべくしたのは巴里に滞在して居る日本人の中に、多少物の解つた人があつた爲であらうと思はれる。我輩は此無名氏に向て厚く感謝の意を表する。若し牧野男が何事か言つたとしたら、其一言一句は悉く日本の耻晒して、即ち明治四十年日本政府が時期未だ熟せずとして斷つたと云ふ事が、歐米の識者に嗤笑せられた経験を再び繰返へすに相違ないと信ずる。(八年五月十二日)

|| 大正八年六月『太陽』掲載 ||

十四 労働非貨物主義の公認

國際聯盟に附帶する國際労働法制に我邦が加入したことは、失態だらけの日本外交に取つては、實に怪我の功名と言ふ可きものである。然るに我邦にては、人種差別撤廢の要求が容れられなければ、國際聯盟を脱退せよとまで力説する人にして、國際労働法制に加入することに大いに反對して居る人が尠くないやうである。是は自家矛盾も甚しいのである。國內に於て労働者に對して文明國の通義たる合理的保護をさへ加へない國が、差別撤廢を要求するなど云ふは、我田引水論も甚しいのであつて、英米佛の偽善的正義人道論に引けを取らぬ不埒千萬な主張である。而して米國や濠洲に於て、日本移民が排斥せらるゝ其の經濟上具體的の理由は、日本労働者が労働條件の要求に於て甚だ幼稚であることは是れである、否定する能はざる事實である。若しも日本労働者の生活程度が高まり、其労働條件の要求が米濠労働者と同一程度に進んで居るのに、彼等が日本労働者を排斥するならば、其れは人種的僻見に基く不都合として飽迄争ふ可きであるが、今日の日本労働者の程度を以て、無差別待遇を求むるは聊か無理な次第である、故に眞に人種差別の撤廢を熱望するならば、國際法制の強制を待つまでもなく、日本は自ら進んで、國際法

制の認められた程度の労働保護を實行して、而して後に、正々堂々と差別撤廢を主張す可きである。然るに既に國際聯盟の一員となり、其の労働法制に加盟することになつてから後、其の除外的取扱を求むるなどは、實に驚き入つた話である。殊に此等の主張が、雇主資本主の意向に迎合する人々によつて、臆面もなく唱道せらるゝは、百鬼畫行ともいふ可きである。前月の『太陽』や『解放』の拙文に於て早大教授服部氏の此種の議論を罵倒して置いたら、早大學生らしい人々から脅迫的の書狀が大分舞ひ込むが、イクラ脅迫されても、予輩は服部氏の議論を大愚論なりと斷定するを止め能はぬものである。學者なれば、局外公平の議論を立つ可し、學者に誤謬や錯誤は免れない、ソレハ仕方がないが、或利害關係を背景として、我田引水的に立論するは、學界の神聖を汚漬する大曲事である。服部氏は學者たる招牌をかけて、實は商業會議所の爲めに御用論をやつて居るのでないかと思ふ。果して然るならば、實に甚しき曲事で、我輩は執念深く鼓を鳴らして、其の不可なるを糾さずして已む能はざるものである。而して平生敬重して措かざる獨立自由の學府早稻田大學の神聖の爲めに、實に痛歎に堪へない次第である。早大諸君は匿名の脅迫狀を

寄せるやうな卑怯をやめて、正々堂々と予輩と論戦を試むるの勇氣はないか。予輩は何時でも交戦を辭せざるものである。

二

さて國際法制は、其第一條に労働を商品として取扱はずと云ふ大宣言を掲げて居る。人或は之を以て、例のウキルソン式の瞞着的修辭なりとして一笑に附するものがある。其立案者に於ては、或は單なる修辭として掲げたのであつて、ウキルソン式であるかも知れない。然し我々は、其修辭なりとも既に一度公言せられた以上は、之を責めに責めて何時かは事實上の公認たらしむる日の來る爲に、努力せねばならぬと信ずるものである。今日の世界に於て、殊に我日本に於ては、労働は商品としても、亦殆ど最劣等の種類の取扱を受けて居る。せめて商品としての充分なる取扱を受ける文けに進むことは、年來我々の切望する所であつた。故に今國際法制に加入したとて、商品としての取扱をせぬなどと云ふことは、殆んど一のユートピアに近い空想であることは言ふ迄もない。然しソレ

ダカラとて、右の主義宣言を一笑に附するは當を得て居らぬと信ずる。兎に角宣言文けでも、労働非商品主義を公認することゝなつた以上、日本の労働問題は、全く新しい世界に立入つたもので、従つて日本の労働政策は根本からして立て直さねばならぬ。工場法の如きも、根本的大改正を急要とするは申すまでもないことである。政府に於ても多少準備に取かゝつたやうであるが、民間の輿論が之を鞭撻するにあらざれば、又々骨抜きの改正に墮して仕舞ふことは、殆んど鏡にかけて見得るやうである。労働時間を八時間にすること、幼工使用を禁ずること、婦人賃銀を同質の男子賃銀と同一とすること、團結權の承認、生活賃銀の保障、婦人監督官の設置等は、今直ちに之を法律上に於て規定して、嚴重なる條件の下に於ける除外例丈けを許す可きである。法の規定其物を國際法制以下に引下ぐることは、斷じて不都合である。今念の爲め世界經濟生活改造の一大福音たり、労働者に取つての『マグナカルタ』とも云ふ可き、國際労働法制の箇條を左に掲げて置く。

- 一、労働は、單に貨物或は商品と認むべからずとする大原則
- 二、被傭人并に傭主が適法の目的の爲め結合する權利

- 三、其時代及其國に於て適度の標準として承認せらるゝ所の、生活標準を維持するに適當なる賃銀を被傭人に支拂ふこと
- 四、一日八時間、或は一週四十八時間制を以て目標とすべき労働標準とし、未だ之を採用せざる國は之を採用すること
- 五、日曜日、又は便宜の日に於て、毎週一回宛滿二十四時間連続する休暇を與ふること
- 六、幼年労働を廢止すること及び青年労働者の教育の繼續を許し、且適度なる身體の發育を確保する規定を課すること
- 七、男女とも、同一價値の労働に對し、同額の報酬を受く可き原則
- 八、労働條件につき、各國が其法律を以て定めたる標準を基とし、適法に其國に居住する凡ゆる労働者の經濟上公平なる待遇につき、適當なる顧慮を拂ふべきこと
- 九、各國は、被傭者保護の法令の實施を確保する爲め監督官制度を制定し、其中に婦人監督官を加ふること

三

當面の問題として、第一に來る、第二條の團結權の認承是れである。此の規定を誠心

誠意に遵守せんとならば、我治安警察法第十七條は即時に全廢せねばならぬのである。此一條を存して置いて、團結の認承などと云ふは世界を欺くものである。聯盟國の信義を破るものである。如何に温情主義の縦斷關係のと云つて見ても、此一條ある間は駄目な事である。恐らく頑冥者流も廢止の切要を認めざるを得なくなつたらうから、近く其斷行を見るかと思ふ。若し然らざれば日本は文明國として、背信の所業を敢てするとの批難を世界中から招くに相違ない。

第四條、第五條、第六條、第八條、第九條は之に準ずる規定を工場中に設く可きである。除外や割引は一切不可である。第三條は具體的の實施には餘程の困難が伴ふ、コレは即時に實行は出来まい、併し着々として此目標に向つて進み、少くとも最低生活賃銀を保障し得るやうにせねばならぬ。第七條も即時實行は困難である、現に小學教員さへ女教員の俸給は、男教員の其よりも遙かに低いのである。併し同じく此標準に向つて進む方針だけは確立せねばならぬ。さて残る所は第一條である。是れに就て少しく論じて見よう。

四

勞働を單に貨物或は商品と認むべからずとする大原則を認むると云ふことは、具體的の施設として如何にすれば宜しいかは大問題である。而して今日の賃銀制度、資本組織にして存続する限り、此原則の認承と云ふことは事實に於て矛盾である。此意味に於ては、此第一條は世界永遠の平和軍備全廢などと同様の大空想であると罵られても辭することは出来ない。故に世人が之をウキルソンの修辭なりと一笑することになるのである。然しソレは物の見方にある。『單に貨物と認む可からず』と云ふ。『單に』と云ふ一字が挿入せられて居るのは、大に意味のあることと思ふ。即ち今日の賃銀雇傭制度の下に於ける勞働の雇傭は、商品としての取引たることは已むを得ない。之を根本的に顛覆しようとは云ふのではない、其期する所は、單に其れ丈に止まつて、其以上又其以外に、勞働とは畢竟するに人間の力作に外ならぬこと従つて其力作の提供は、人間其のものに關係するものなることを忘れ、又は無視せぬようにすると云ふことにあるものと思ふ。勞

働が商品たること其事を否認するのではない。其は已を得ざることである。然し其れ丈けで安心満足して居てはならぬ、更に一步進めて労働雇傭の人間の方面をも發揮せよと云ふのである。斯く解釋すれば決して空想ではない、單なる一の修辭ではない、否労働問題の取扱ひ方、其見方に一大福音を齎らすものである。否な世界の經濟生活改造の上に一大福音たるものである。即ち労働の人間性 *Humanity of Labour* を認めて、從來の如く單に労働の商品性 *Commodity of Labour* のみを視ることを已めよと云ふのである。吾輩は此第一條を斯く解釋するものである。

五

労働者状態の改善の爲には幾多の施設が行はれた、併し何れも其商品性を過重するもので、其人間性を十分に理解したとは云へない。此點に於ては、近來流行の米國テーラーの主張にかゝる『科學的經營法』は甚だしき誤謬に陥つて居る。テーラーは揚言して曰く、労働問題とは畢竟賃銀と時間との問題である。賃銀を十分にやり、時間を短かくして

やりさへすれば、労働の不安不平はなくなると。科學的經營法は即ち如何にして労働の能率を高め、之によつて時間の短縮賃銀の引上げを實現し得可きかを最高の問題として、幾多有効なる工夫を旋らすもので、其実績は實に顯著である。併乍らコレハ労働の人間性を彌々益々減減するもので、其商品性を更に強くインテンシファイするものである。労働の不安不平は決して單に賃銀や時間のみに限られるものではない。否労働問題の根柢は單に労働者の貧乏に存するのではない。河上博士が『貧乏物語』を著して社會問題の根本は貧乏に在りとの説を大に力説せられて以來、我邦では貧乏の重要に着目する人の殖えたは、誠に結構の事ではあるが、貧乏が社會問題の根本なりと思ふのは大なる謬見である。此點に於て私は極力河上博士に反對せざるを得ぬものである。若し貧乏さへ取除けば宜しいといふのなら、テーラー式科學的經營法は大に歓迎す可きものである。然るに實際の事實として、テーラー式に依る所でも、労働問題は決して減じて居ない、否却つて不平の聲が高くなつて居るので、其爲めテーラー式は一時程の人氣がなくなつたは、適確なる事實であり、労働者も雇主も之を批難するもの、其本國たる米國に續出す

るのが今の實狀である。ソレハ畢竟勞働の人間性を無視するからである。

六

テーラー式では、勞働の能率を高める爲に、勞働を全く器械的のものたらしめ、勞働者をして其頭を使はしむる必要を全く省くことを眼目として居る。勞働に考事は敵である。今迄の勞働が力作しつゝ考ふることを必要として居たから、考ふること丈け無駄となり時間も徒費する。其必要を全く取去つて、勞働者は勞働時間中一も物を考へ、頭を使ふと云ふ必要をなくなして、一意専念力作にのみ全精神を集中せしめる。之が能率を増進するのである。成程其爲めに能率は増進する、其代り勞働者は彌々益々唯だ働くのみの動物と成り下つて仕舞つて、僅に残つて居た人間味は全く取り去られて仕舞ふのである。コレでは人間たる勞働者は永く耐へることが出来ない、従つて不平不安が昂じて來たのである。

七

一體勞働が苦痛であると云ふのは、其が力作であるからではない、力作は人間の生理上、心理上必要で、或程度迄の力作は人皆之を營むことが、人間生存上の根本要求である。其力作が過大になれば、過大其のものから苦痛の起るのは勿論である。併し今日の勞働の最も苦痛とする所は、其れではない外にある、何かといへば、勞働に創意が伴はぬと云ふことと是れである。雇主の命を唯々諾々として、自分は何の工夫をすることも許されず、唯だ器械的に力作に従ふと云ふ事が、人間たる勞働者に取つては最大の苦痛であるのである。自分の頭を働かせ、物事を考へると云ふことを許されぬのが最大の苦痛である。創意の餘地なく唯執行のみをすると云ふことが最大の苦痛である。故に時間短くて力作其ものは過大でなくとも、苦痛は依然として滄らないのである。之に賃錢を多くやつて生活に事缺かせぬは結構千萬であるが、其爲に勞働其ものゝ苦痛は軽減せられないのである。貧乏を取除いても、苦痛は依然として存する。従つて不平不安は去り得ぬのである。時

間を短くして過勞を免かれしめ、賃銀を十分にせずして貧乏を免れしめることは、實に肝要である。併し其れだけでは根本的解決は付かないのである。況んや時間を短くする爲め、賃銀を多くする爲めに、テラー式によつて益々勞働の人間性を破壊すれば、一方に得る所は、他方に失ふ所を却つて償はざる結果を持來たすのである。是れテラー式に勞働者が反抗するやうになつた原因である。利益分配法とても略ぼ同じである。利益分配と稱して實は留保せられたる賃銀を後拂すること、其事既に甚だ疑問であるが、假りに數歩を譲つて利益分配法が宜いとしても、それは單に勞働者の收入を殖やすのであつて、而して他方利益を多く産み出す可く、或は過勞し或は人間味を破却することを免れぬ、従つてテラー式の場合と同じ結果に陥る。殊に利益分配法の爲めに、勞働者が其力の極度まで働く結果は、其全部が勞働者に歸着するのではない、其一部のみしか貰へぬので、他の部分は資本主の利益を増大するのである。尤にパンを見せてチンクをさせるやうなものである。尤は一片のパンは貰へるが、其爲にチンクの藝當をやらせられて、パンの投主の弄み物となるのである。三島彌吉氏の三益主義とは、能く正直に標榜したもので

ある。勞働者の利益の爲めではない、三益主義で資本主も腹を肥やす名案である。資本主は利益を得る斗り、其れに對する損は一もないが、勞働者は若干の利益の爲めに、益々其力作上に於て人間性を滅却せねばならぬのである。賃銀受授關係に於ては成程利益の分配に與かるから、人間らしい待遇を受けるやうであるが、其勞働時間の全部をあげて、非人間的取扱をインテンシファイするのである。資本主と云ふものは、轉んでも唯は起きない、誠に甘い事を考へ出すものであるが、勞働者こそ迷惑此上ない譯である。

八

國際法制第一條の眞意を吾輩の解する如くに取れば、斯く力作に當つて人間性を滅却することは反對す可きである。勞働を商品として取扱はずと云ふことは、決して賃錢の受授の上のみに限る可きではない。否、其最も重要な適用は、勞働生活の大々部分を占むる所の力作其ものゝ上に於て、ななければならぬ。單に賃銀の支拂に人間味を増した丈けで、力作作業其ものを益々非人間化して行くのは、右第一條の精神に逆行する所以で

ある。労働非商品主義の正さに歓迎す可きは、力作作業其のものを人間化 Humanize すると云ふ一點になければならぬ。強いて極端なことを云へば、時間や賃銀は元の儘でも、力作作業其ものをウント人間化することを得れば、是れ眞に労働者に取ての大幸福大解放である。

九

力作作業を人間化すると云ふは、労働者に物を考へる餘地を與ふることから始めねばならぬ。殊に創意の餘地を與へねばならぬ。インダストリアルデモクラシーとは此事である。其れには労働者をして經營上に参政權を得せしめねばならぬ。一工場一經營を一の代議政治によつて運營せねばならぬ。此を名けて Democratic Control of Industry と云ふ。企業の方面に干與せしめることは、今日の處實行の望甚だ乏しい、何となれば事實不可能である。株式會社の株主さへ企業には干與せぬ、唯だ報告を聽取る丈けで實際帳簿の檢閲はやらぬ、やり得ぬ、やつても効はない、却つて害がある、況んや労働者に於いて

をや。今日の資本組織の存續する限り、企業上の Democracy は實行不可能である。商會上のコントロールは出來ない相談である、コレハ現状に任せる外はない。之に反し技術上經營上殊に實際具體的の作業は行はうとするならば、直ぐにも Democratic Control の下に置くことは出来る。武藤山治氏の發案かと思ふが、鐘紡では作業上職工の意見を好んで採用する方針を取つて、之を獎勵して居る。之れは營業利益増進の爲めにやつて居るのであるが、之れを變じて労働者本位とし、且つ意見を採用すると云ふに止まらず、必ず意見を陳述す可き權利と義務とあるものとし、一週一回とか毎月一回とか、職工議會を開いて（其時間は必ず之を労働時間中に算入するを要す）差支ない限りは、其の決議を待つて作業上一切の事項を定め、工場長は其決議實行の義務あるものとす可きである。若し Direct democracy が實行不可能なら Representative democracy としても差支ない。即ち代表議員を選出せしめ、其議會に工場經營の主權を與ふ可きである。

十

然し右は歐米では直ぐに實行出来ると思ふが、日本では中々困難であらう。ソコデ其準備（工場議會開設準備と名けて置かう）を爲す可きである。其れには色々な事もあらうが、吾輩の今考へて居る所は次の事項である。一は日本で國會開設の下稽古として地方長官會議を開いた其様に、工場使用職工中、多少教育あり見識あり、人の前で物を言ふことを憚らざるものを選出して、時々工場以外に於て諮問會を開くこと是である。其選出されたものは、自分の考を立てることに勉む可く獎勵するのである。又た同時に同僚職工の意見なり思はくなりを取次ぐ責任を帯びしむ可きである。其陳述した所は必ずしも採用すると拘束せず、併し成る可く之を尊重し、其可なるものはドシ／＼實行するにとするるのである。

紡績工場のやうに女工のみ又は多数が女工である場合には、右の實行も困難であらう、併しながら獎勵、誘掖して行けば、決して出来ないことはないと思ふ。

十一

次に工場監督官をして、職工に接近せしむることである。監督官に對してなしたる陳述に就ては、雇主は決して職工を責めないと思ふことを、工場法に嚴かに規定す可きである。此事は女工の場合には殊に必要と思ふ。現に予の乏しい経験でも、監督官が女工からの申立によつて、工場主の不都合を發見した實例が若干ある。女工からの投書は時々監督官の許へ來るそうである。コレハ大に獎勵せねばならぬ。予の實驗中、或工場には病室の設けはあるが、ソレは夫婦者の職工か役員に住居に宛て、女工中の病人は大病人と雖も普通の寢室においてあることを、其の工場を巡視中一女工から聞いて發見したことがある。

十二

最後に予の最も力説せんと欲することは、Employment manager（人事支配人又は人事技師長）の設置之れである。今日の工場は商賣方面には支配人あり技術方面には技師長工場長があるが、人間方面には、單に雇入解雇を司る人事係がある計りである。今日の

工場は金儲け本位であるから、仕方はないと云へば夫迄であるが、金儲けの爲めに高給の支配人、金儲け實行の爲めに技師長、工場長を置いて居乍ら、最も大切な人間の爲めには、殆んど何も置いて居ないのである。即ち人間を單に道具、貨物、商品と見る、否、商品以下に見て居る最も有力なる證據である。尤も倉敷紡績の大原孫三郎氏の如く自ら社長であり乍ら、營業技術には夫々部長主任を置いて居るが、人事課長は自ら之を兼て居て、技術や商賣の事は人任せにして、自分は専ら男女工の生活、寄宿舎、貸屋、幼稚園、病室の設備に心を潜めて居る人も我邦にないではないが、其は寧ろ稀有な取除けである。大抵は商賣や技術の事には頭を使つて居ても、人間の方面は全く知らず、女工の寄宿舎などへは、設立以來一度も入つて見たこともないといふ社長や重役斗りである。彼等は男女工を以て厄介千萬にも飯を食つたり寝たり病氣をしたりする道具位にしか思つて居らぬのである。同じ道具でも器械は飯も食はず寝もせぬから之を可愛がる。飯を食ひ病氣になるやうな贅澤な道具は、ヤクザ者位にしか考へて居らぬのである。現に或る製糸工場で予輩を案内した幹部の一人は云つて曰く、『如何も工女と云ふものはイジの汚ないものでおまけ

に男を欲しがると來て居ますから、コンナ厄介なものはありません』と、而して其欲しが
る男を防禦す可く殆んど鐵條網にも類する木柵は、何れの工場にも拵へてあつて一々鍵
をかける。女工は動物園の猿の如くに其鍵をかけられた木條網の中から、一步も嗜み出
ることを許されないのである。斯くの如くんば監獄と相去ること幾干もなしといつて
可なりである。製糸工場の多くに於ては繭を煮る釜の側に揚枝と齒磨、憐れなる女工は
毎朝口中を掃除するものと見へる、コレ丈けでやつと彼等は人間味を發露して居るので
ある!!』とがブラ下げてある、何故洗面所で顔を洗はないのかと問へば、彼女等は答へる、
洗面所にはタラヒもなく冬は水がつかない。繭の釜ならタラヒの代用にもなり、温かい
お湯がイクラでも出て來ると!!繭はヲカイコ様と唱へて大事にする。女工は飯を食つ
たり男を欲しがつたりする厄介な道具であると考へる。コレデハ人間味は何處に之を
求め得られよう。

予は力説せんとす。先づ人事支配人、人事技師長を置き、器械よりも原料よりも人間の
取扱を研究せよと。

近來米國や英國では此の Employment manager を置く工場が大分ある。其始めの動機は職工の出入の頻繁なるを防ぐにあつた。其道の人々の研究した處では例へば米國デトロイトにては職工の出入の爲めに能率を減すること二十五パーセントであるそうで、之を止めた爲めに二十五パーセントの能率増進を見たといふ（詳しくはポイントフツシアの Industrial loyalty と云ふ本を見よ）。此の點も我邦に於ては十分に研究す可きことである。Employment manager を置いて専門に調査す可きである。而して作業上に於ける人間の取扱を重大事として、高給の役員をして之れを専掌せしめ、且つ各種能率と疲勞との問題を研究せしむれば、結局營業上の利益をも増し得よう。米國では Fatigue and Efficiency の問題は、近來大に研究せられ、其結果を應用して利益を増進すると同時に、勞働者の待遇に着々改良を施して居るものが殖ゑて來た。我邦でも少くとも大工場では直ちに之に做ふ可きである。例へば前例した大原氏の如き人は、賣名の調査事業に費やす金があるなら、自己の工場の一部でもいゝから、之を疲勞能率研究の用に供し然る可き専門家に託して、實驗調査研究をして、他の工場主に參考の材料を提供したならば、國に貢

獻し又た勞働者の利害を進むるに於て世間的に聞への宜い事業に於けるよりも、更に有効有力であらうと思ふ。其に付けても Employment manager に其人を得なければ、我邦多數の工場長の如きを相手では何も出來る見込はない。人間と云ふことに十分に理解あり同情ある人が其處に居なければ、外部から研究者が飛込んでも、手の着けやうはないことと思ふ。

十三

之を要するに、國際勞働法第一條に、勞働非商品主義を公認したことは、目前の效果は一つもないであらうが、之を善用すれば、經濟生活の改造に取つて一大福音となり、勞働問題の解決に有力なる貢獻を爲すことと思ふ。我々は Humanity of Labour 『勞働の人間性』てふ標語を向後は公然と高く掲げて、其の爲めに奮闘し得られる丈けでも愉快此上ないことと思ふ。大戦争の齎らしたものの内此の國際勞働法制文だけは、實にウエルソンの言前たる『世界をして人類の住むにより、善き處たらしむる』一方法である。我邦は無自覺

に之に加盟したのではあるが既に加盟した以上其の加盟をして大に有意義たらしめ大に有力有効たらしめるは、正に我々の頭上にかゝる大事業であると信ずる。而して是れ實に、經濟生活改造途上に於ける一大福音と斷ず可きものである。(八・六一〇認む)

|| 大正八年七月「改造」掲載 ||

十五 小島國的侵略主義の應報

過般時事新報の巴里特派員なる伊藤正徳氏が、同紙上に於て數日に亘りて連載した巴里講和會議に於ける、我が委員の活動に關する記事は、何故か左して世人の注意を惹かなかつた如くであるが、余輩は多數の同種の記事中、特に出色の文字たりし事を看過する譯

に行かなかつた。多數新聞、通信社の特派員中にありて、氏は際立ちて鋭利なる觀察力と正當なる批判力の所有者であることを示して居る。特に獨逸に對して擊沈船の賠償を要求するに當りて、日本委員が其の小島國根性を遺憾なく曝露した事に關する記事は、余輩に感銘を與ふること最も深きものであつた。日本委員は世界全體に亘る大問題——我が日本國民全體を代表して大に世界の改造に就いて議せねばならぬ問題に就ては、殊勝にもまた寛大にも、否甚しく柔順に小心翼翼として沈黙を守り來りしに係らず、獨逸に對して賠償を求むるが如き言はゞ小さき利益問題に臨みては、極めて大膽に全力を盡して自説を主張し、臆面もなく小島國的慾張を發揮して、追の伊太利委員さへも驚かして居る。其の故は斯様な利益問題の場合に於ては、日本委員の背後に世界的經綸などに無關心なる資本家、船會社や一部の實業家が控へて居つて、彼等が自己一身の立場から、各々躍起となつて慾張的主張を固持したのかも知れないといふことである。斯くの如く國家全體の問題に非ずして、一部資本家の利益に關する場合に於てのみ、日本委員の態度の鮮かに鞏固であるといふ、此の一事は決して輕視すべき事ではない。併し是は單に巴里に

於ける日本委員のみの責では無い。近來は日本の政治及び外交が一般に著しく斯様な色彩を帯びて來て居るのであつて、彼等は巴里に於ても、日本一般の斯くの如き方針を遵奉したに過ぎない。折角五大強國の一つとして、世界の大會議に列しつゝも、世界改造の大事業には何等貢獻する處なく、反對に小島國的我慾を發揮する事に於ては、決して人後に落ちないで、巴里の大舞臺に徒らに列國の物笑ひを残すのも、近來の我が政治及び外交一般的傾向の然らしむる所である。

二

我が外交上の斯様な小島國的な利己的な傾向は、現下の日支關係に於て甚しき害をなして居る事は確かである。支那に於ける排日運動は殆ど全土に蔓延し、愈々激甚の度を加へて今や策の施しやうなき状態に立ち至つて居る。素より之には様々の原因があらう。支那人の日本に對する輕卒なる誤解もあらう。外國人一般に對する反感も加はつて居るだらう。併し冷靜に觀察すれば、其の誤解にも相當の根據がある。少くとも誤解を嘲

ける資格は日本人には無い。併し余輩は此處に於て支那の留學生に對する日本人の待遇を非難せんとするものではない。斯様な點に於ては、留學生自身にも非難すべき種々の點があるから、公平に云へば五分五分である。また一般に日本人が支那人を侮蔑するといふが、これも數年前に比すれば著しく其の度を減じて居るし、日本人の中には、支那に對し可成り同情に富んだ態度を持し、胸襟を開いて相語らむとするものも非常に多くなつて居る。支那に於ても、また日本に親しむ事を求むる人は澤山にある。されば、斯様な點に於ては、要するに五分五分の關係である。併し日本に學びしもの、或は日本を最も好く知れるものにして、日本に親しみうる人の中に今や却て排日論者の多いといふ一事は、特に日本人の考慮を要する點である。また彼等は最も強く國を愛するが故に、日本を恐るゝものである事も、同情を以て考へて見ねばならぬ事である。

口にこそ日支親善を唱ふれど、腹の中には『支那には到底獨立の能力がなく、何れは日本の勢力下に來るべき者』といふ考へを持し、今の中に各々出來るだけ多くの利權を獲得して置きたいと企つる者が、特に日本の資本家には非常に多い。これ言ふ迄もなく

日本の島國的な我利的な外交方針の生れ出づる抑々の源泉で、同時に明かに今日の排日運動を挑發した一つの源泉である。

三

現に對支新借款團の問題に於ても、既にこの事が著しく現はれて居る。勿論英米佛の態度にも面白からぬ節々は多い。先日新聞では、ランシングは支那に關して石井大使との協約を破棄すると公言したとも傳へられて居る。現に阪谷男の渡支が今や殆ど沙汰済みとなつて了つたのも、此邊の關係からであると察せられる。またアポットの行動に就て、極端なる批評も下されつゝあるが、それは必ずしも根據の無い事ではない。けれども、兎に角ランシング、アポットの手によつても、新借款團の成立する上は之に對しては我々にも多大の任務がある。既に日本が巴里に於て國際聯盟に加はつた以上は何處までも其の精神を以て進むべきである。余輩は今日の國際聯盟は、英米の資本家に都合よきものに過ぎずとして、其成立には反對した。併し既に出來た以上は、日本が獨り脱退す

るわけには行かない、否進んで有力なる一員となりて、英米に對抗して行く事を心掛くるより外に仕方がないものと信じて居る。而して今回の對支新借款團なるものも、國際聯盟の一の現はれであれば、之に應ずる事は少くとも形の上にては正當な事である。列國の中には素より此借款を利己的に利用し、支那を資本的に侵略せんと企つるものが無いとは限らない。併し乍ら、日本が之に合同して同じく、小さい乍らに資本的侵略主義を行はんと企つる事ありとすれば、そは大なる誤りである。何れの國も我利を出さぬやうに、心掛眞に支那の爲め、従つて世界の平和の爲めを測るを本旨とすべきは言ふ迄も無い。現内閣に於ても、既に之に應ずるに決定し、民間に於ても之に對し種々の註文を試みて居る如くである。併し余輩は政府並に民間識者の之に關する種々の詮議を聞く時、彼等は果して其本旨を如何なる點に置いて居るかについて、甚だしく疑懼を抱かざるを得ないのである。經濟借款の分離とか、滿蒙除外とか、五百萬圓以下除外とか、種々の註文をなす時、彼等は支那を本位として之を考ふるか、四國協同従つて國際聯盟を本位とするか、全體として日本を本位とするか、或は論者夫々の自己一人の私利を本位として之を考ふるか。

四

對支新借款團に加入するに際して、日本は勿論日本を本位とせなければならぬ。併し乍ら日支の關係は特別のものである事を忘れてはならぬ。それ故に、日本本位一點張に考ふる事は不可能である。否、或る場合には日本の利益を犠牲にしても、支那のために計らねばならぬ關係がある。また、もとより四國協調にて行ふならば、他の三國の立場も考へねばならぬ。併し眞に支那のためにして、而して支那本位から考ふるならば、四國協調も破らざるを得ない場合がある事も知らねばならぬ。而して目下の必要は、日本が眞に支那の爲めを思ふ事を、支那は勿論世界に知らしめる事である。之に關して余輩は小林博士の意見に全然賛成するものである。博士の意見によれば、日本の對支經濟關係は、英米佛のそれとは全く異ならねばならぬ。支那の側より云ひて英米佛の主張が不爲であつて、日本の主張が爲めになる場合が幾らもある。日本が如何に支那の爲めに盡さうとしても、協調が之を妨げる場合がある、それ故に日本は除外例を要求せねばならぬといふ

のである。此意見は原則としては全く正當である。而して政治上に於ても經濟上に於ても、外交上に於ても、日支間には特別の關係のある事は列國の認むる所である。それ故に若し日本にして支那に對し侵略的野心のない事が明かに認めらるゝならば、列國も日本に對し此の點は許すであらう。併し若し三國がこの事を認めて、尙且つ協調によりて日本の支那に對する誠意を妨げんとするが如き場合があれば、日本は宜しく協調を破棄すべきである。今の所にては、具體的には何事もないのであるから、強ひて協調を脱せんとするには當らない。問題は列國協調して眞に支那の爲めを計るか否か、其れとも名は美にして、實は支那を侵略するものであるか否かにある。今彼は云ひて意志の疎通を缺くが如き事があつてはならぬ。殊に斯かる點に於て、日本の小資本的な、而も小島國的な侵略主義の存在を世界に疑はしめて、特に今日の支那の惡感情を招致するは甚だ愚なことである。

山東問題に就ても、區々たる經濟上の利益に眩惑されて、小島國根性を曝露する事は日支の特別なる關係に鑑みる時は、日本將來の爲めに大損である。英米の資本的侵略主義

の尻馬に乗りて支那に對せんとせば、それは日本を誤る最も甚しきものである。カロリン、マーシャル島に就ても既に講和會議に於て日本の委任統治の問題が決められた以上は、一部の資本家の爲めに區々たる利益の問題を喧しく論ずる等は、國家の名に於てなすべき事柄ではない。

之を要するに、對支借款問題、山東問題對獨賠償要求等種々の問題に於て、近來日本外交のとれる態度の一般的傾向は、利己的小島國的侵略主義の色彩を帯ぶるものであつて、換言すれば國家の名に於てする外交が、一部資本家の私利を背景として立つに至つて居るといふ事である。而して獨逸の資本的侵略主義が遂に國を滅すに至つたのは、少くとも或る程度迄はそれが一部の利己的な資本家に利用されたが爲めである事は、日本國民の考へねばならぬ點である。而も小さい高利貸的な資本的侵略主義は獨逸のそれ以上に國家にとりて危険である。支那に於ける排日熱の昂進は實に其の曠面の應報である。

併乍ら此は決して獨り當局者のみの罪ではない。國民全體に責めがある。國の輿論が覺醒しない間は當局者も一部の力に制せられて、不本意なる事もなさねばならぬ場合

がある。政黨政治の缺點が此處にある。素より政黨政治には獨特の長所がなければならぬ。然し此長所は輿論の覺醒によりてのみ發揮され、之によりてのみ缺點は補はれる。若し輿論の覺醒なき時は、政黨政治は却て官僚政治獨裁政治にも劣るは明かである。故に必要なは國民が覺醒して、政府の行動 對して常に嚴正なる批評を加へ、之を監督する事である。夫にしても、先づ第一に我國民の覺醒しなければならぬのは、近時日本の外交が小島國的資本的侵略主義の色を帯び、一部資本家の爲の外交に漸次深入りしつゝある點である。是れ國家の前途の爲めに余輩の最も恐るゝ所である。

|| 大正八年七月『新時代』掲載 ||

十六 世界は欺くべからず

『世界は欺くべからず』と云ふことに就て御話をします。此度華盛頓に開かれる勞働

大會は、各國の資本家と各國の労働者とが寄つて、今迄世界に於て出来て居なかつたことを、新に行はうと云ふ會議であるのであります。若しも彼の五箇條が既に世界の到る所の國に於て、現に實行せられて居るものならば、此度の國際會議と云ふものは全然無用なものであります。

然るに我邦から労働大使として派遣せらるゝと云ふ鎌田榮吉氏は、亞米利加まで行つて労働代表委員と吾々が啞合ふと云ふことは、國の爲に宜しくない、是は出来る丈け妥協をする様にしなければ往かぬ其意味に於て、資本家の代表者及労働者の代表者と吾々とは、出立前に十分に議を凝して行かうと思ふ、斯う言はれました。是が既に非常に間違つた考である。若し資本と労働とが國內に於て妥協の附くものならば、態々華盛頓まで行く必要は少しもない。日本の資本家が八時間労働、其他彼の五箇條に現れたことを少しも争はずして、直ちに今行ふならば華盛頓に行く必要は少しもない。彼等がそれを爲さないから、各國の労働代表者が集つて此資本家を強制しやうと云ふのであります。世界何れの國に於ても、未だ彼の五箇條は行はれて居らぬ、之を新に行はしめやうと云ふに

は、強制なくしては、即ち労働者の強い勢が之を餘儀なくするにあらざれば出来ないからこそ、彼の會議を開くのであります。然るに行く前に既に妥協が附くものならば、さつさと彼の五箇條を實行して而して我邦に於ては彼の五箇條はチャンと實行して居る、其外の事ならいざ知らず、彼の五箇條の審議の爲に、一人も日本から人が行く必要はないと、斯う言ふべき筈であります。

然るに、鎌田労働大使が更に言ふのには、日本に於ては治安警察法第十七條がある、併しながら、是は恰も人體に於ける臍のやうなものである、最早用を爲さないし、使ひさへしなれば別に廢してしまふ必要はないと、斯う言はれました。而して鎌田大使は、政府の旨を奉じて此治安警察法第十七條なる、未だ切れて居ない長い臍の緒をブラ／＼ブラ下げ、華盛頓へ行かれるのである。西園寺さんは巴里へ付ける味増までも持つて行つたと云ふことであります。鎌田さんは臍の緒をブラ下げて行くのであります。

然るに、此臍は現に鎌田さんが未だ洋行の準備中、せつせと荷物をトランクに詰めて居られる間に、既に動き出したのであります。即ち安部教授が唯今申された通りに、砲兵工

廠の『ストライキ』に於て、治安警察法を振廻さないと吳々も明言したにも拘らず、事が済んでから後に、此臍が動き出したのであります。故に私は次の如くに、日本の労働會議に於ける日本の地位を評せんと欲するのであります。

講和條約の會議に於ては、西園寺さんは唯だ味噌を付けたゞけに止まつた。然るに華盛頓の會議に於ては、鎌田さんは臍の緒をブラ下げて行かれて、世界中の人々に此臍で茶を沸かさせようとしつゝあるのではないか。秀吉は軍中大茶の湯を催したとて、古來より其風流を稱へられました。鎌田さんは世界大戰の終局を期として、世界中の人を集めて、臍茶の湯の大會を米國華盛頓で開かれるのであります。而して臍茶を沸かす爲に、最も有力なる燃料となるものは、我労働代表者に就ての日本に於ける所の大なる失態であります。世界の人が之を聞いたならば、實に臍で茶を沸かすのみならず、殆ど日本を以て一も信用すべき國と看做さないのであらうと思ふのであります。治安警察法を適用せずと稱して直に之を適用する、是は國民を欺くのである。併ながら吾々日本國民は、實に忠君愛國の念に強い者であります。欺されても欺す相手が當局者であれば、大概の事は我慢

します。然るに世界の人間は、日本の當局者に對して左様な義務を有つて居らぬ者であります。欺されたとなれば直に怒るに定まつて居ります。日本の治安警察法を其儘にして、是は唯だ臍などと云つて誤魔化して、労働會議に大使を派遣せんとする而して最も肝腎なる労働の代表者は、些しも労働者から選ばれたものでない所の人を派遣せんとしつゝあるのであります。

農商務省に於ける協議委員會に選ばれた所の三人の人々は、何れも立派な方々でありませう。殊に第二候補者たる高野君は、私が二十年來の親友であつて、同君は労働代表委員として、殆ど理想的の人であると云ふことは確に信ずる所であります。併ながら、此高野君でも今日のやうな形式の下に於て、若しも労働委員たることを承諾せらるゝならば、私は二十年來の親友であるけれども、鼓を鳴して同君を攻めんと欲するのであります。否、私は斯の如き曖昧なる労働委員を、臍と共にブラ下げて行く所の鎌田君の顧問として、高野君が行くにも大反對であります。單に高野君が行かるゝに反對であるのみならず、吾々の同僚にして、之と同時に、之と同時に行かるゝ人が澤山あります。私は今晚の席上に於て、是

等諸君に悉く亞米利加行を辭退せられんことを勸告するものであります。更に進んで、録田大使にも臍の緒を切つてからならば亞米利加へ行かるべし、然らざる限りに於ては、労働大使として行くことを、日本の爲にも亦私共の關係の深い慶應義塾の爲にも、斷じて中止せられんことを勸告せんと欲する者であります。

唯今承はる所に依ると、本多君も高野君も或は榊本某も、與に労働委員たることを辭退するかも知れぬと云ふことであります、而して之に對して、或新聞記者が農商務當局者に質問を發したら、最早最善を盡したから、三人が斷れば別に新に人を選ぶべく協議委員會を開く必要はないと斷言したさうであります。諸君、初めから斯う云ふ誠意の無い態度である、労働の代表委員は出さないで、それでも構はぬと云ふ諸君そんな労働會議がありませんか。資本の代表者は行かなくとも、國家の代表者は行かなくとも労働の代表者は必ず行かなければならないのであります。然るにそれが行かなければ行かなくても宜いと云ふ左様な誠意の無い誤魔化的の態度を持つて、此度の事に向つて居るのであります、故に例へば友愛會、信友會等の有力なる團體が、協議委員會に列席することを拒んだに

も拘らず、尙ほ其非を遂げて恬として耻ない、遂に豫定通りの候補者を選定せしめた、是れ畢竟何故であるかと云ふと、是は妥協したいからであります、八百長をしたからであります。八百長的なる豫定の計劃を遂行するには硬骨なる眞正の筋肉労働者若くは其代表者では工合が悪い、故に政府の妥協主義、録田大使の臍茶主義に合ふやうな人を得たいとして、此度の失態を來したのであります。農商務省當局者と雖も、是が若し華盛頓の會議に於て、資格審査の席上に於て落第すると定まれば、斯の如きことは眞逆にしますまい。然るに彼等は是で資格審査を通過すると思つて居る。恰も治安警察法第十七條をブラ／＼下げて行つて、それで國際労働會議に平等なる一員たるものが出來得ると信じ

て居る所の、愚と迂濶とに同じきものであります。日本はそれでも誤魔化せませう、世界は誤魔化せませぬ、世界の人には眼もあります耳もあります、日本で何をして居るか、日本で如何なる事が起つたか、略ぼ之を知つて居るに相違ありません。然るに今日の新聞で見ると、或る委員の談として、ナニ、ゴンバースは大目に見て呉れるであらうと云ふことが書いてあります。大目で見えて呉れるであらうな

どと云ふことは、一の獨立國としてみつともないも程がある事であります。正々堂々と如何なる嚴重なる資格審査にも及第し得る所の委員を挙げやうと思へば、挙げられるのであります。己の愚なる爲に、及第さして呉れるであらうと云ふやうな、誠に喪家の犬の如く頭を下げて國際會議に列席する。それだから日本の國威は到る所に行つて踏み潰されて居るのであります。世界を欺くことは、即ち日本の國を賣ることになるのであります。是は單に決して勞働の問題ばかりではないのであります。日本の總ての人民にかかる大問題であります。

唯今も安部教授から勞働問題は、勞働者が主として之に當るべきものであると仰せられました。無論さうです。併乍ら諸君、此度の勞働代表委員の問題は、決して單に日本勞働者だけの問題ではありませぬ。世界の勞働者が、日本の政府に依つて欺されたと云ふことでもあります。勞働は決して單に日本に限つたものではない。英吉利に於て亞米利加に於て佛蘭西に於て勞働と云ふものは、資本に對して獨立の地位を有つて居るものであります。此獨立の地位を有つて居る勞働は、偶々日本の愚なる所の當局者の爲に、全然愚弄せ

られてしまつて居るのであります。

私は此度の勞働會議に、劈頭第一の大問題は、日本當局者に依つて加へられたる、國際勞働に對する侮辱を、如何にして解くべきかの問題であらうと思ふのであります。其れをしないやうな國際會議なら、是れ又一の瞞着と斷ずる外はありません。他面に於ては、此勞働代表委員を斯の如き不眞面目なる誠意の無い方法を以て選んだと云ふ事は、聽て日本の全體を侮辱したることでもあります。單に勞働者のみの問題ではありませぬ。國民全體に關する所の問題であります。而して此誤を轉じて正しきに向はしめ、日本の國の耻を雪ぎ、世界全體の勞働者に加へられたる所の侮辱を取除き、世界を欺くものたる所の汚名を、永久に日本國の頭上から取去る任務は、一に係つて日本の勞働者諸君に在るのであります。勞働者諸君、日本の政府は勞働を資本と對等のものと認めては居らぬのであります。然るに怪我の功名とも云ふ可き國際勞働法制への加入によつて、日本の政府は心にもなく、形式上、文けなりとも、資本と對等なる取扱を、日本の勞働に與へることを餘儀なくせられたのであります。コレが此度の華盛頓會議の最大最重の意義であります。其

の會議に於ける審議其ものは第二次的のものたるに過ぎません。日本から代表者が行つたとて別に大したことの出来ないことは、始めから分り切つたことであります。世界列國の代表者は夫々立派な人が出ませう。其人等が腦漿を絞つて決定することに、何物をか附加へると云ふやうな大したことは、見渡す限りの日本の委員には迎も出来ないこととであります。否、草稿朗讀以上の演説一つ出来ないことは世間須知の事實であります。労働者では語學が出来ないと云ふ人もあるが、私から見れば、ソナ事は五十歩、百歩の差違に過ぎません。或日本の社會主義者が、國際労働會議などは、西洋人に一任して置けば宜しい、日本人に何が出来るものかと或雜誌に書いて居ります。私も事實の話としては、同様に考へて居るものであります。語學とか何んとか、ソナ事は何れでも構はないのであります。問題の中心は、日本の労働者が此度始めて、而も政府者が之を欲せざるにも拘らず労働者と云ふ地位に立つて、自己に信頼する一代表者を、世界の檜舞臺へ送り得ることになつた其一事です、コレが實に至大至重の意義を持つて居るのであります。然るを當局者の不謹慎、無理解姑息なる妥協主義の爲めに、此の重大な意義ある特典は、日本勞

働者の手から奪はれて仕舞つて、多數資本家より成る協議委員會が出来たのであります。コレが大不都合大暴行であるのであります。折角世界の大部分が頑冥なる日本當局者をして、心ならずも労働者に代表者を出さしむ可く豫期したことが、スツカリ水の泡に歸して仕舞つたのであります。然る以上誰人を選出してもモハヤ駄目であります。然るに政府者は申します、今日の日本には労働團體がない以上、此以上の方法はない、加ふるに日切迫の際何とも仕方がない、次回からは萬遺憾なくやる、此度だけは兎に角我慢して貰ひたいと。コレが甚だ間違つた考であります。恰も似合の夫婦候補者がある、然し今仲人を立て、チャント順當に合忝式を擧げる追もない、否、花嫁たる可き令嬢の意向を尋ねる時日もない。仕方がない、一切の手續は追つて後から盡くす、兎に角事は急を要するから、花嫁は不取敢強姦をして置け、跡の事は我等が引受けるからと云ふやうなものであります。成程一度事實關係が成立すれば、似合の夫婦の事だから、跡はうまく行くかも知れません。然し其婚姻は抑々強姦によつて成立したと云ふことは、兩人の生くる限り打消すことは出来ません。日本労働史の第一頁が、此く一度汚される以上は、後日に何の手續を

盡したとて、其汚點は日本國の存在する限り永久に消滅することはないのであります。是れ私が極力當局をして、其非を改めしめようと熱望する所以であります。諸君事は急に迫つて居ります。一刻を躊躇する間に、アタラ處女の貞節は破られんとしつゝあるのではありません。笈々乎として其危哉であります。私は唯一人でも起つて、可憐なる一輪の蕾を蹂躪せんとする、此の一陣の狂風を防ぎ止めなければならぬと堅く信するのであります。諸君問題は實に重大であります。決して單に友愛會、信友會の體面問題とか、何とか云ふ様な、小なる事柄ではありません。諸君、日本勞働運動の第一頁を清く維持するか否かの大責任は、一にかゝつて諸君の肩の上に在るのであります。

|| 大正八年九月廿六日青年會館勞働者大會講演同十月黎明會講演集第二卷第二輯掲載 ||

昭和二年七月五日 印刷
昭和二年七月十日 發行

廉刷版經濟學全集

第六集經濟政策及時事問題 第三分册

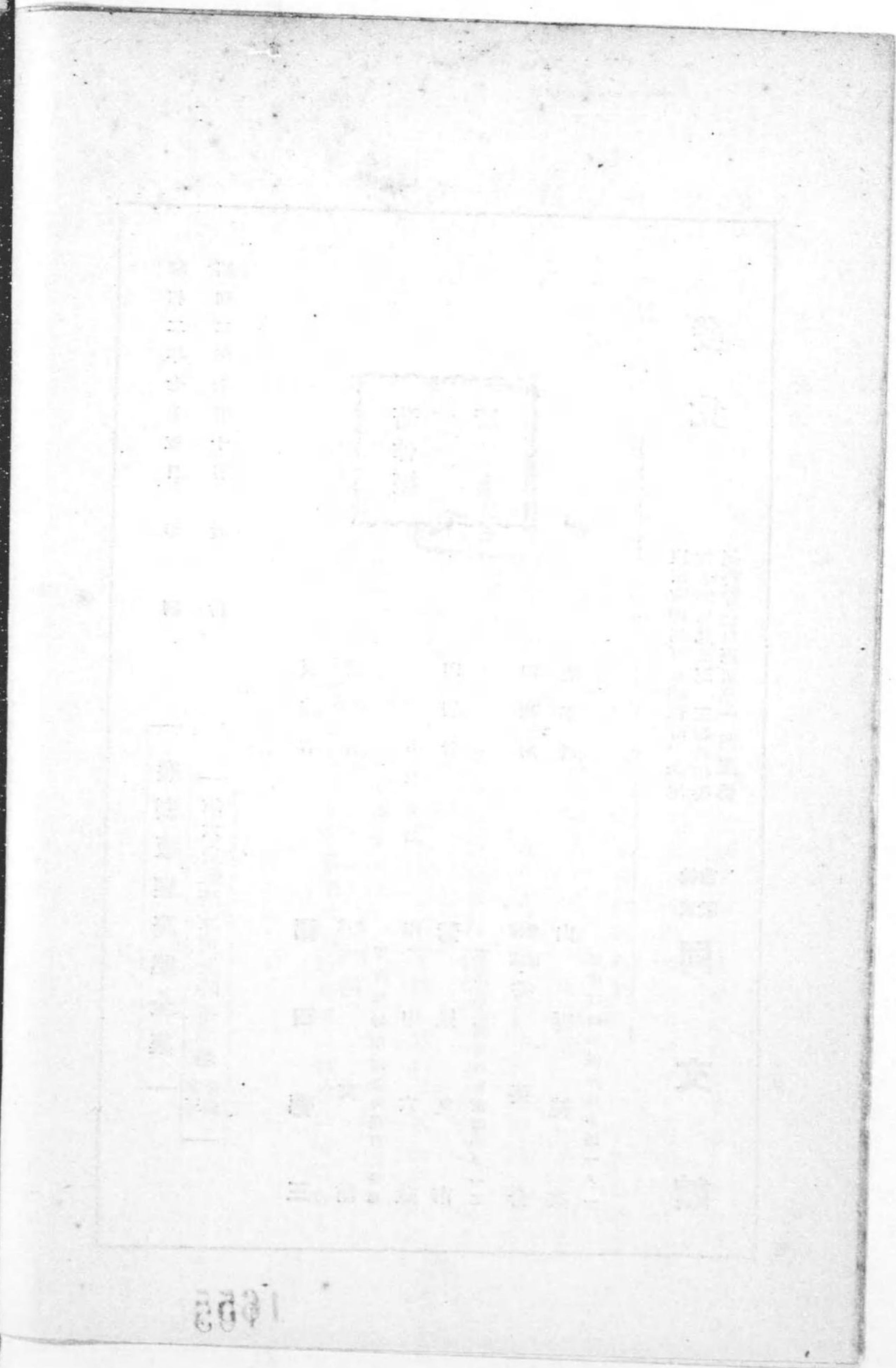
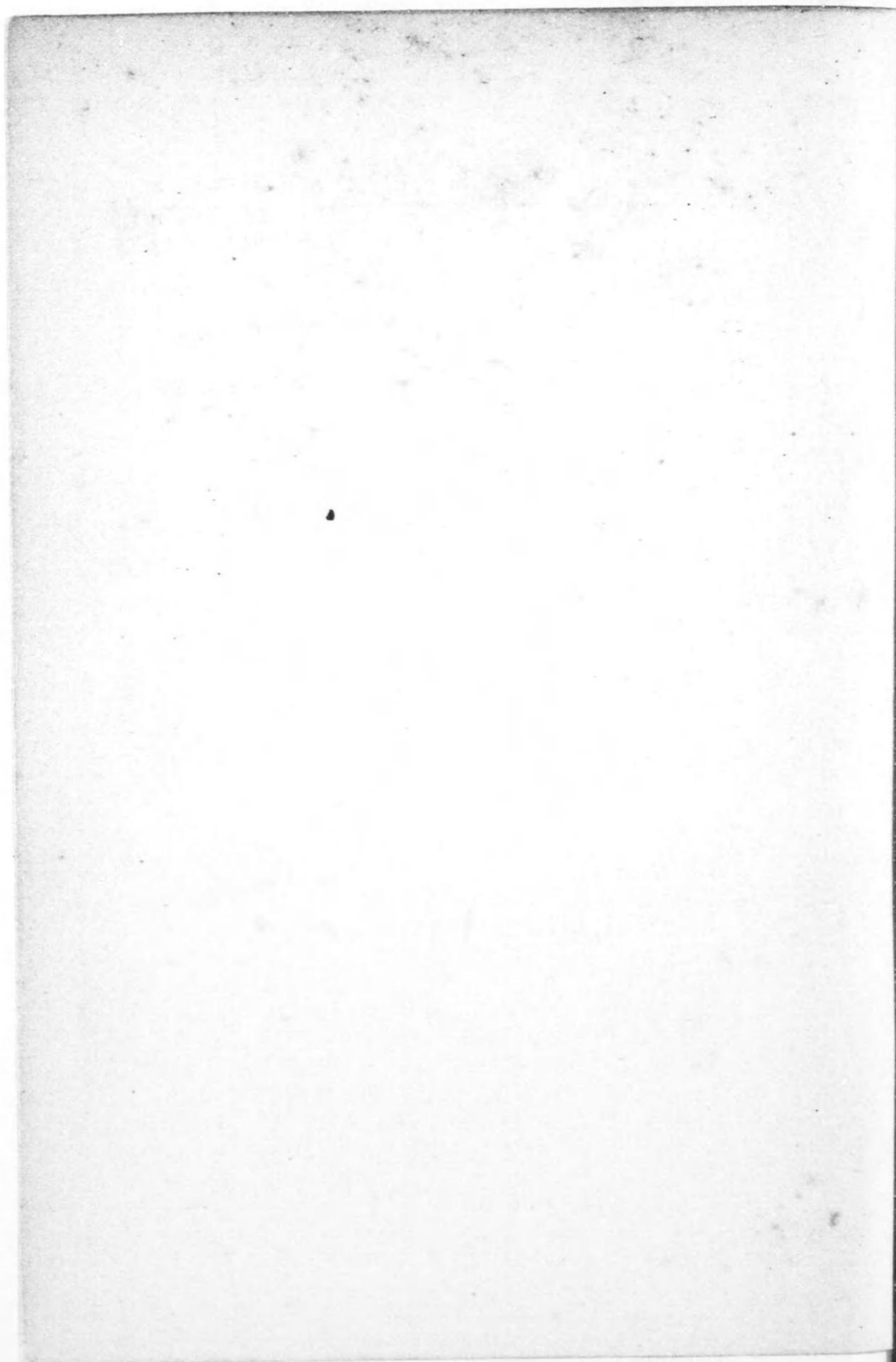


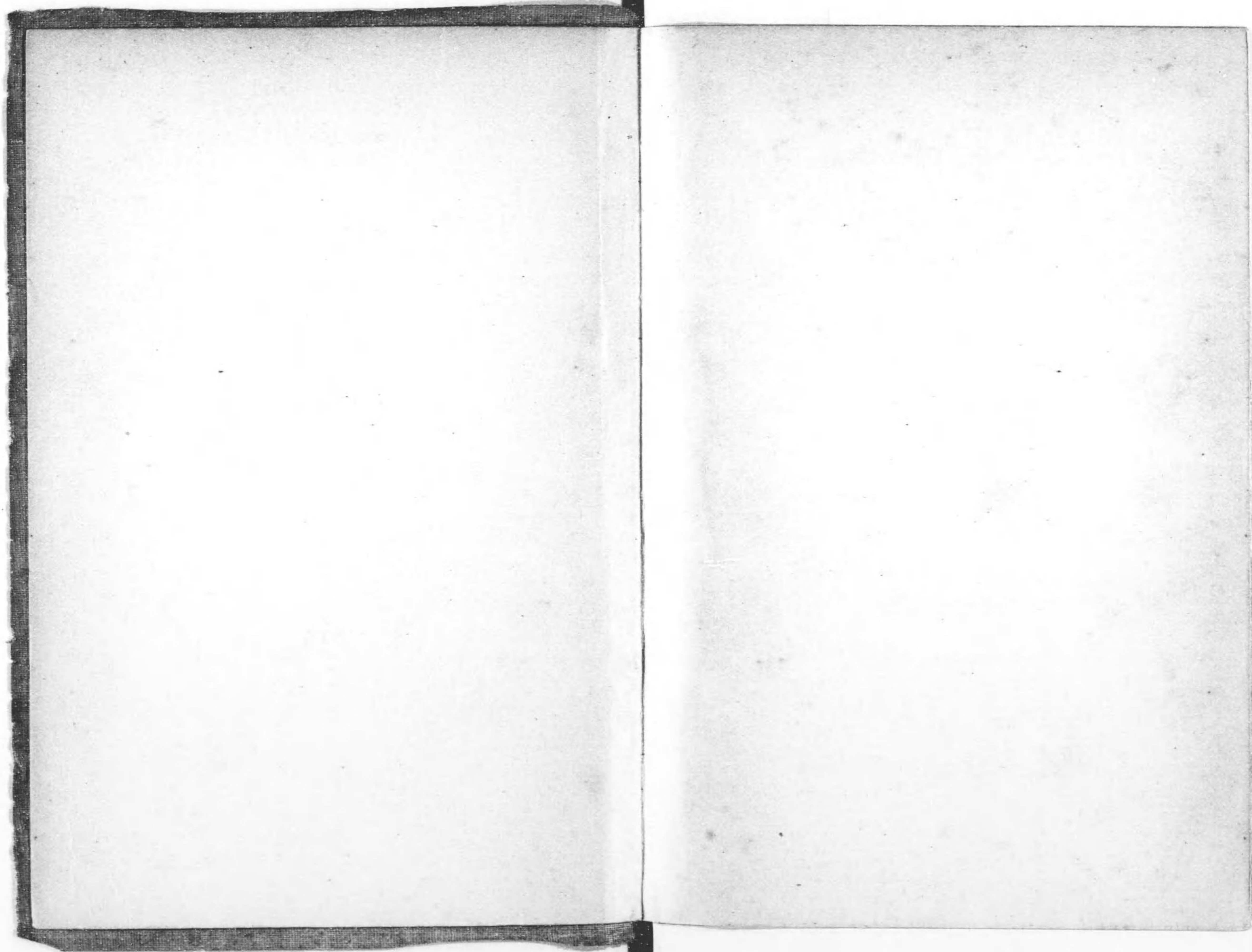
著者 福田 徳三
發行者 株式會社 同文館
右代表者 東京市神田區表神保町二番地
印刷者 田中 六藏
印刷所 鷺見 九市
製本者 株式會社 秀英舍
東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二
山縣 純次

發兌

東京市神田區表神保町二番地
電話神田九三三・三〇八〇番
振替貯金口座東京一三五番

株式會社 同文館





終

